

CA SYSVIEW® Performance Management

リリースノート

バージョン 14.0



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複製、譲渡、開示、変更、複製することはできません。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、
(i) 本ドキュメントが関係する CA ソフトウェアの使用について CA とユーザとの間で別途締結される契約または (ii) CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負いません。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者は CA です。

「制限された権利」のもとの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2014 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルが参照している CA Technologies の製品は以下のとおりです。

- CA Application Performance Management (CA APM)
- CA Cross-Enterprise Application Performance Management (CA Cross-Enterprise APM)
- CA DATACOM®/DB (CA Datacom/DB)
- CA Graphical Management Interface (CA GMI)
- CA Chorus™ Software Manager (CA Chorus Software Manager)
- CA Chorus™
- CA IDMS™
- CA OPS/MVS® Event Management and Automation (CA OPS/MVS)
- CA SYSVIEW® Performance Management (CA SYSVIEW)
- CA SYSVIEW® Performance Management Option for CICS (CA SYSVIEW Option for CICS)
- CA SYSVIEW® Performance Management CA Datacom® Option (CA SYSVIEW CA Datacom Option)
- CA SYSVIEW® Performance Management Option for IMS (CA SYSVIEW Option for IMS)
- CA SYSVIEW® Performance Management Option for TCP/IP (CA SYSVIEW Option for TCP/IP)
- CA SYSVIEW® Performance Management Option for WebSphere MQ (CA SYSVIEW Option for WebSphere MQ)

CA への連絡先

テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

マニュアルの変更点

以下のリンクを使用して、以前の CA SYSVIEW マニュアル選択メニューにすばやくアクセスできます。

- [CA SYSVIEW Performance Management 13.9 マニュアル選択メニュー](#)
- [CA SYSVIEW Performance Management 13.7 マニュアル選択メニュー](#)
- [CA SYSVIEW Performance Management 13.5 マニュアル選択メニュー](#)

目次

第 1 章: 既存機能の拡張	7
ログ ストリーム 使用状況	7
ログ ストリーム 参照 コマンド の 変更	8
インストール 拡張 機能	17
ユーザ スーパーバイザ コール (SVC) の 削除	18
CA CSM	19
ユーザ 代替 可能な モジュール	20
管理	22
パラメータ ライブラリ データ セット メンバ LOGGER	23
パラメータ ライブラリ メンバ OPTIONS	25
パラメータ ライブラリ メンバ SYSDATA	26
オプション	26
ベース 製品 の 拡張 機能	26
Option for CICS	45
CA DATACOM Option	62
Event Capture Option	65
IDMS コンポーネント	68
Option for IMS	68
Option for WebSphere MQ	78
強化 された システム 間 サポート	90
コンポーネント	90
オーディット イベント コンポーネント	90
GUI (グラフィカル ユーザ インターフェース)	92
REXX 環境	93
セキュリティ	94
ユーザ 定義 ディスプレイ	98

第 1 章：既存機能の拡張

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[ログ ストリーム使用状況](#) (P. 7)

[ログ ストリーム参照コマンドの変更](#) (P. 8)

[インストール拡張機能](#) (P. 17)

[ユーザ代替可能なモジュール](#) (P. 20)

[管理](#) (P. 22)

[オプション](#) (P. 26)

[コンポーネント](#) (P. 90)

ログ ストリーム使用状況

CA SYSVIEW では、MVS ログ ストリームによるオンライン表示に関する履歴コレクションデータを維持しています。

ログ ストリームとの間での読み取りおよび書き込みに使用される CA SYSVIEW ログ ストリーム技術の拡張により、以下の利点が得られます。

- ログ ストリームとの間での読み取りおよび書き込みに使用される CPU 使用時間が短縮され、パフォーマンスが大幅に向上します。
- ログ ストリームから大量のレコードを読み取るための経過時間が短縮されます。

ログ ストリーム参照コマンドの変更

ログ ストリーム参照コマンドの **PERIOD** オペランドのデフォルトを変更できます。このオペランドは、検索するデータの範囲を制限します。コマンドは、より使いやすくなり、より速く結果を返します。

AUDITLOG

オーディットイベントログ。

新規サブコマンドの構文

構文： **OPTIONS <options>**

パラメータおよび説明

Period seconds - レコードを表示する期間を指定します。デフォルトは 0（無制限）です。

値の例

60	60 秒
120Sec	120 秒
5MINutes	5 分
1Hours	1 時間
1Days	1 日
1MONths	1 か月
1Years	1 年
hh:mm:ss	時:分:秒

CTRANLOG

CICS トランザクション ログのサマリ。

新規サブコマンドの構文

構文： **OPTIONS <options>**

パラメータおよび説明

Period seconds - レコードを表示する期間を指定します。デフォルトは 0（無制限）です。

値の例

60	60 秒
120Sec	120 秒

5MINutes	5 分
1Hours	1 時間
1Days	1 日
1MONths	1 か月
1Years	1 年
hh:mm:ss	時:分:秒

CTRANSUM

CICS トランザクション間隔。

新規サブコマンドの構文

構文 : OPTIONS <options>

パラメータおよび説明

Period seconds - レコードを表示する期間を指定します。デフォルトは 0 (無制限) です。

値の例

60	60 秒
120Sec	120 秒
5MINutes	5 分
1Hours	1 時間
1Days	1 日
1MONths	1 か月
1Years	1 年
hh:mm:ss	時:分:秒

CSYSDATA

CICS システム間隔分析。

新規サブコマンドの構文

構文 : OPTIONS <options>

パラメータおよび説明

Period seconds - レコードを表示する期間を指定します。デフォルトは 0 (無制限) です。

値の例

60	60 秒
120Sec	120 秒
5MINutes	5 分
1Hours	1 時間
1Days	1 日
1MONths	1 か月
1Years	1 年
hh:mm:ss	時:分:秒

HCLOG

ヘルス チェッカ ログ。

新規サブコマンドの構文

構文 : OPTIONS <options>

パラメータおよび説明

Period seconds - レコードを表示する期間を指定します。デフォルトは 0 (無制限) です。

値の例

60	60 秒
120Sec	120 秒
5MINutes	5 分
1Hours	1 時間
1Days	1 日
1MONths	1 か月

1Years	1 年
hh:mm:ss	時:分:秒

IMSOMAT

IMS OM 監査証跡。

新規サブコマンドの構文

構文： OPTIONS <options>

パラメータおよび説明

Period seconds - レコードを表示する期間を指定します。デフォルトは 0（無制限）です。

値の例

60	60 秒
120Sec	120 秒
5MINutes	5 分
1Hours	1 時間
1Days	1 日
1MONths	1 か月
1Years	1 年
hh:mm:ss	時:分:秒

IMSRLOG

IMS 領域サマリ ログ。

新規サブコマンドの構文

構文： OPTIONS <options>

パラメータおよび説明

Period seconds - レコードを表示する期間を指定します。デフォルトは 0（無制限）です。

値の例

60	60 秒
120Sec	120 秒
5MINutes	5 分
1Hours	1 時間

1Days	1 日
1MONths	1 か月
1Years	1 年
hh:mm:ss	時:分:秒

IMSTLOG

IMS トランザクション ログ。

新規サブコマンドの構文

構文： OPTIONS <options>

パラメータおよび説明

Period seconds - レコードを表示する期間を指定します。デフォルトは 0（無制限）です。

値の例

60	60 秒
120Sec	120 秒
5MINutes	5 分
1Hours	1 時間
1Days	1 日
1MONths	1 か月
1Years	1 年
hh:mm:ss	時:分:秒

LGBROWSE

ログ ストリーム ブラウザ。

新規サブコマンドの構文

構文： OPTIONS <options>

パラメータおよび説明

Period seconds - レコードを表示する期間を指定します。デフォルトは 0（無制限）です。

値の例

60	60 秒
120Sec	120 秒

5MINutes	5 分
1Hours	1 時間
1Days	1 日
1MONths	1 か月
1Years	1 年
hh:mm:ss	時:分:秒

MQRLOG

MQ リクエスト履歴ログ。

新規サブコマンドの構文

構文 : OPTIONS <options>

パラメータおよび説明

Period seconds - レコードを表示する期間を指定します。デフォルトは 0 (無制限) です。

値の例

60	60 秒
120Sec	120 秒
5MINutes	5 分
1Hours	1 時間
1Days	1 日
1MONths	1 か月
1Years	1 年
hh:mm:ss	時:分:秒

OPERLOG

オペレーション ログ。

新規サブコマンドの構文

構文： OPTIONS <options>

パラメータおよび説明

Period seconds - レコードを表示する期間を指定します。デフォルトは 0（無制限）です。

値の例

60	60 秒
120Sec	120 秒
5MINutes	5 分
1Hours	1 時間
1Days	1 日
1MONths	1 か月
1Years	1 年
hh:mm:ss	時:分:秒

PLOTLOG

履歴プロット ログ。

新規サブコマンドの構文

構文： OPTIONS <options>

パラメータおよび説明

Period seconds - レコードを表示する期間を指定します。デフォルトは 0（無制限）です。

値の例

60	60 秒
120Sec	120 秒
5MINutes	5 分
1Hours	1 時間
1Days	1 日
1MONths	1 か月

1Years	1 年
hh:mm:ss	時:分:秒

SMFLOG

SMF ログ。

新規サブコマンドの構文

構文： OPTIONS <options>

パラメータおよび説明

Period seconds - レコードを表示する期間を指定します。デフォルトは 0（無制限）です。

値の例

60	60 秒
120Sec	120 秒
5MINutes	5 分
1Hours	1 時間
1Days	1 日
1MONths	1 か月
1Years	1 年
hh:mm:ss	時:分:秒

XLOG

例外ログ。

新規サブコマンドの構文

構文： OPTIONS <options>

パラメータおよび説明

Period seconds - レコードを表示する期間を指定します。デフォルトは 0（無制限）です。

値の例

60	60 秒
120Sec	120 秒
5MINutes	5 分
1Hours	1 時間

1Days	1 日
1MONths	1 か月
1Years	1 年
hh:mm:ss	時:分:秒

インストール拡張機能

インストールプロセスが機能強化されました。

システム環境設定オプション

サンプルシステム設定オプションメンバは、CA SYSVIEW の現在および以前のリリースの SYSVIEW samplib データセット `sysview.CNM4BSAM` 内にあります。サンプルメンバには、すべてのオプションと各オプションの詳細な説明が含まれます。

メンバ

- GSVSGSVX (バージョン 14.0 の場合)
- GSVXR139 (リリース 13.9 の場合)
- GSVXR137 (リリース 13.7 の場合)
- GSVXR135 (リリース 13.5 の場合)

SYSVIEW ライブラリの連結

注: このライブラリ連結情報はリリース 13.9 およびバージョン 14.0 に対して有効です。

CA SYSVIEW のインストールは、いくつかのタイプのライブラリまたは特定のタイプのデータが含まれるように設定されたデータセットで構成されます。このライブラリは、ライブラリタイプ (`libtype`) として参照されます。

ライブラリタイプは、複数のデータセットで構成されることがあります。これらのデータセットは、指定されたライブラリタイプに対して読み込み要求が作成される際に動的に連結します。

1つのデータセットタイプに対して1つのデータセットのみを定義できます。したがって、最大の3つのデータセットを連結できます。

定義されているデータセットは、以下の順に連結されます。

```
Libtype DD DISP=SHR,DSN=user.data.set
         DD DISP=SHR,DSN=site.data.set
         DD DISP=SHR,DSN=system.data.set
```

SITE データセットおよび SYSTEM データセットの割り当ては、インストール中に行われます。

SYSTEM データセットには、現在のリリースのメンバが入力されています。

SITE データセットは、割り当てのみ行われます。SITE データセットにメンバはコピーされません。SITE データセットは、顧客が作成するメンバに使用されることを目的としています。メンバには、定義またはシステム定義のオーバーライドが含まれます。将来的なリリースにマイグレートする際に SITE データセットを再利用します。

SAMPLIB データセットには、USER データセットおよび SITE データセットを割り当てるためのサンプルジョブが含まれます。

- USER ライブラリ データセットを作成するジョブ

```
SYSVIEW.DEV.BASE.SAMPLIB(USERLIBS)  
Sysview.samplib
```

- SITE ライブラリ データセットを作成するジョブ

```
SYSVIEW.DEV.BASE.SAMPLIB(SITELIBS)  
Sysview.samplib
```

ユーザスーパーバイザコール(SVC)の削除

バージョン 14.0 より前のリリースでは、CA SYSVIEW システム環境設定オプションメンバ GSVXGSVX でユーザ SVC を定義していました。このメンバは、システム parmlib 連結内に存在します。

バージョン 14.0 以降では、廃止された以下のシステム環境設定オプションをすべてのオプションメンバから削除します。

SVC-Number

このオプションを削除しない場合、以下の一連の警告メッセージを表示して CA SYSVIEW の初期化が続行されます。

```
GSV445W Configuration member: GSVXGSVX
```

```
GSV446W Configuration option: SVC-Number nnn
```

```
GSV447W Configuration error: Option name is obsolete.
```

CA CSM

CA Technologies にはすべてのメインフレーム製品にわたって標準化された製品インストールがあります。インストール手順は以下のとおりです。

- 取得 - ソフトウェアをユーザの z/OS システムに転送します。
- SMP/E を使用したインストール - SMP/E 環境を構築し、RECEIVE、APPLY、および ACCEPT の手順を実行します。ソフトウェアはカスタマイズされていません。
- (CA Chorus Software Manager リリース 5.1 以前の場合のみ) 展開 - 別のシステムまたは LPAR にターゲット ライブラリをコピーします。
注: CA Chorus Software Manager バージョン 6.0 の場合、この手順はオプションです。詳細については、<http://ca.com/support> にある CA Chorus Software Manager バージョン 6.0 マニュアル選択メニューで利用できるシナリオ「CA Chorus Software Manager を使用した製品の設定」を参照してください。
- 設定 - ソフトウェアを実行可能状態にし、カスタマイズされたロードモジュールを作成します。
- (CA Chorus Software Manager バージョン 6.0 でのステージングシステム設定の場合のみ) 展開 - 設定されたランタイム ライブラリを、そのソフトウェアをアクティブにできるリモート ロケーションで使用できるようにして、実行可能状態にします。

[CA Chorus™ Software Manager \(CA Chorus Software Manager\)](#) は、z/OS システムにおいて各種の CA Technologies 製品インストールアクティビティの自動化および簡略化ができる直観的な Web ベースのツールです。また、このアプリケーションにより、修正および推奨メンテナンスの取得と適用が容易になります。Web ベース インターフェースにより、より速く、より少ない失敗で製品のインストールとメンテナンスが可能になります。ベストプラクティスとして、CA Chorus Software Manager を使用してメインフレーム製品およびメンテナンスをインストールすることが推奨されます。CA Chorus Software Manager を使用すると、JCL および SMP/E に関する経験が少ないユーザでも製品をインストールできます。

ユーザ代替可能なモジュール

以下のモジュールは、ユーザによって代替可能です。

- **GSVBSSID** - デフォルトの **CA SYSVIEW** サブシステム ID

CA SYSVIEW スターティッドジョブ、アドレス空間、ユーザセッションは、セッションが接続する **SYSVIEW** のインスタンスを決定する必要があります。通常、ユーザはシステム上で **SYSVIEW** のインスタンスを 1 つ実行します。 **GSVX** のデフォルトのサブシステム ID は、その **SYSVIEW** インスタンスに割り当てられます。

以下の場合には、サブシステム ID を指定することにより、ジョブ、アドレス空間、またはユーザセッションを **SYSVIEW** の正しいインスタンス接続してください。

- システム上で **CA SYSVIEW** の複数インスタンスが実行されている場合
- **SYSVIEW** インスタンスに割り当てたサブシステムが **GSVX** 以外に設定されている場合

サブシステム ID は、さまざまな方法で指定できます。これらは、呼び出しのタイプ（ジョブ、アドレス空間、ユーザセッション）によって異なります。

GSVBSSID モジュールには、**CA SYSVIEW** のデフォルトの **GSVX** サブシステム ID が含まれます。 **CA SYSVIEW** セッションを呼び出す際にサブシステム ID が指定されない場合、モジュール **GSVBSSID** のコンテンツが使用されます。

このモジュールは、以下の目的で便宜上提供されています。

- **SYSVIEW** の複数インスタンスを実行する
- デフォルトのサブシステム ID を **GSVX** 以外に変更する

- **GSVBUXLT** - ユーザ変換テーブル

変換テーブルセットは、モジュール **GSVBUXLT** で定義されています。インストレージテーブルを表示するには、**TRTABLES** コマンドを使用してください。異なる特殊文字のセットが含まれる可能性のあるカスタムテーブルのアセンブルおよびリンクを行うには、**USERMOD** を使用してください。

注: **INSTALL** の実行に **SAMPJCL** データセットのメンバ **USRM0002** を確認してください。

注: モジュール GSVBUXLT は便宜上提供されているものであり、変更する場合には必要条件はありません。

CA SYSVIEW では、以下のユーザ変換テーブルが提供されています。

Standard

(デフォルト)標準変換テーブルセットを提供します。

Alternate

代替変換テーブルセットを提供します。

XStandard

拡張された標準テーブルセットを提供します。

XAlternate

拡張された代替テーブルセットを提供します。

USER1

ユーザ変換テーブルセット 1 を提供します。

USER2

ユーザ変換テーブルセット 2 を提供します。

変換テーブルセットを変更するには、SET TRANSLATE <setname> コマンドを使用します。それぞれの変換テーブルセットには以下のテーブルが含まれます。

AsciiToEbcDic

ASCII を EBCDIC に変換します。

EbcDicToAscii

EBCDIC を ASCII に変換します。

TestAscii

表示可能な ASCII 文字かどうかを調べます。

TestDisplay

表示可能な文字かどうかを調べます。

TestLower

小文字かどうかを調べます。

TestSpecial

特殊文字かどうかを調べます。

TestUpper

大文字かどうかを調べます。

XlateDisplay

表示可能な文字に変換します。

XlateLower

大文字を小文字に変換します。

XlateUpper

小文字を大文字に変換します。

管理

CA SYSVIEW 管理機能が拡張されました。

パラメータライブラリ データセットメンバ LOGGER

パラメータライブラリ データセットメンバ LOGGER が機能拡張され、以下のオプションが追加されました。

StagingFullWarningInterval

デフォルト：00:01:00

レコードがログストリームに書き込まれるたびに、DASD 専用ログストリームに関連付けられたステージングデータセットのステータスに関する情報が取得されます。

ログストリームが定義されている場合は、HIGHOFFLOAD 値が指定されます。HIGHOFFLOAD 値は、ログストリームのオフロード処理が開始されるパーセンテージを指定します。

HIGHOFFLOAD しきい値に達すると、以下のメッセージが発行される可能性があります。

```
GSV2582W Log stream <stream> staging is <pct> full.  
          Capacity level: <status>
```

オフロードステータスは各書き込みリクエストに対して評価されるため、これによって GSV2582W メッセージのフラッドの可能性に対処できます。「StagingFullWarningInterval」オプションは、メッセージが発行される頻度を制御します。

有効な値:

- hh:mm:ss - メッセージの間隔を指定します。

関連オプション:

- StagingNotificationLevel

StagingNotificationLevel

デフォルト：ELEVATED

レコードがログストリームに書き込まれるたびに、DASD 専用ログストリームに関連付けられたステージングデータセットのステータスに関する情報が取得されます。

ログストリームが定義されている場合は、HIGHOFFLOAD 値が指定されます。HIGHOFFLOAD 値は、ログストリームのオフロード処理が開始されるパーセンテージを指定します。

HIGHOFFLOAD しきい値に達すると、以下のメッセージが発行される可能性があります。

```
GSV2582W Log stream <stream> staging is <pct> full.
```

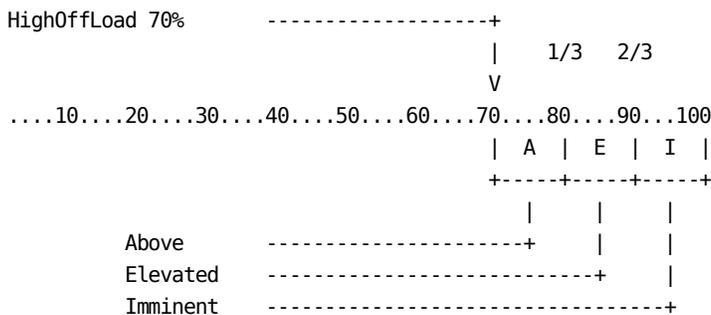
Capacity level: <status>

Capacity level は、定義された高オフロード ポイントを超えた現在の量を示します。

設定可能なステータス値:

- ABOVE - HighOffLoad% と (100% までの) 1/3% の間のステージング キャパシティ レベル。
- ELEVATED - (100% までの) 1/3% と 2/3% の間のステージング キャパシティ レベル。
- IMMINENT - (100% までの) 2/3% と 100% の間のステージング キャパシティ レベル。

例



アラートメッセージを発行するステータス レベルを指定します。

有効な値:

- NONE - アラートメッセージを発行しません。
- ABOVE - オフロードのパーセンテージが、定義された HighOffLoad% と (100% までの) 1/3% の間にある場合にメッセージを発行します。
- ELEVATED - オフロードのパーセンテージが (100% までの) 1/3% と 2/3% の間にある場合にメッセージを発行します。
- IMMINENT - オフロードのパーセンテージが (100% までの) 2/3% と 100% の間にある場合にメッセージを発行します。
- TRACE - 各評価の後にメッセージを発行します。

関連オプション:

- StagingFullWarningInterval

パラメータライブラリメンバ OPTIONS

パラメータライブラリデータセットメンバ **OPTIONS** の機能が拡張されました。

すべての **CA SYSVIEW** タスクおよびセッションは **OPTIONS parmlib** メンバを読み込みます。バージョン **14.0** 以降、データセットの割り当てを減らすために **OPTIONS parmlib** メンバがキャッシュされます。

各サービスアドレス空間内の主タスクは、以下の動作を実行します。

- **parmlib** データセットからメンバを読み込む
- キャッシュされたデータを置き換える

オプション: DynAllocUseMsgLevel0

動的割り当て (**DYNALLOC**) リクエストが **S99RB** 内に **S99MSGLO** フラグを設定するかどうかを制御します。

デフォルト: **Yes**

有効な値は以下の通りです。

- **Yes** - すべての動的割り当てリクエストに対して **DYNALLOC S99MSGLO** オプションが設定されます。この設定により、動的割り当てリクエストは **JCL MSGLEVEL=** オペランドを無視し、代わりに **MSGLEVEL=(,0)** を使用します。
- **No** - 動的割り当てリクエストに対して **DYNALLOC S99MSGLO** オプションは設定されません。この設定により、通常の **JCL MSGLEVEL=** オペランド値を使用できます。

パラメータ ライブラリ メンバ SYSDATA

SYSDATA parmlib メンバは、すべてのデータ コレクタに共通する設定オプションを設定するために使用されます。

以下のオプションが変更されました。

オプション: LOG-XLOG-RECORDS-SMF

このオプションは、CICS を除くすべてのコンポーネントに対する例外のログ記録を制御します。CICS 設定の CICSLOGR parmlib メンバを確認します。

例外レコードを SMF に書き込むかどうかを指定します。

このデフォルト値は YES から NO に変更されました。

有効な値:

- Yes - 例外レコードを SMF に書き込みます
- No - 例外レコードを SMF に書き込みません

デフォルト値

- No

関連オプション:

- LOG-XLOG-RECORDS
- SMF-XLOG-RECORD-COMPRESSION
- SMF-XLOG-RECORD-TYPE

オプション

CA SYSVIEW オプションの拡張機能について、このセクションで説明します。

ベース製品の拡張機能

CA SYSVIEW のベース製品が拡張されました。

拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

ASADMIN

アドレス空間管理

新規データフィールド:

- SWI - タスクの開始待機間隔。
- EAStg - 必要な標準以上のストレージの予想値。

ATTNX

TSO アテンション EXIT

新規データフィールド:

- Defer - アテンション EXIT 遅延状態。
- Sched - アテンション スケジュール済みインジケータ。
- TopLv - トップ レベル アテンション EXIT インジケータ。
- Clist - CLIST ATTN ステートメント サポート インジケータ。
- TAXE - TAXE アドレス。

EXTRACT

さまざまな値を抽出します。

構文:

EXTRACT keyword<, target>

新規キーワード

- DISPLAYDATA - 表示されたデータのタイプを抽出します。
有効な値は以下の通りです。
 - CAPTURED - 以前にキャプチャされたデータ。
 - REALTIME - リアルタイム データ。

GROUPS

論理グループを表示および保持します。

論理グループ

バージョン 14.0 より前の CA SYSDVIEW リリースには、2つの論理グループ コマンド GROUPS および CGROUPS がありました。

CA SYSVIEW バージョン 14.0 以降、CICS 論理グループ コマンド (CGROUPS) は削除されました。すべての論理グループは、単一のコマンド GROUPS を使用して表示および保持されます。

論理グループ定義は、グループ インスタンス修飾子をサポートするようになりました。コマンド構文が機能拡張され、ユーザを移行するための以前のコマンド構文を引き続きサポートする一方で、新しいインスタンス修飾子をサポートするようになりました。

GROUPS コマンドには RELOAD 機能およびサブコマンドが追加されています。RELOAD 機能により、parmlib または永続データ ストアから定義をロードできます。

論理グループを表示する場合の構文

```
GROUPS  {{TYPE type} {options}}
```

- 新規論理グループの追加

キーワードおよび値を使用する場合の構文

```
GROUPS  ADDGrp      Type      type
          ADDGroup   ,Group   group
                               {,Instance instance}
                               ,Desc     'description'
```

特定のパラメータ順序を使用する場合の構文

```
GROUPS  ADDGrp      group type 'description' {instance}
          ADDGroup
```

- 既存の論理グループへのメンバの追加

キーワードおよび値を使用する場合の構文

```
GROUPS  ADDMbr      Type      type
          ADDMember  ,Group   group
                               {,Instance instance}
                               ,Member   member
                               {,inlexcl}
```

特定のパラメータ順序を使用する場合の構文

```
GROUPS  ADDMbr      group type member {inlexcl {instance}}
          ADDMember
```

- 既存の論理グループおよびすべてのメンバの削除

キーワードおよび値を使用する場合の構文

```
GROUPS  DELGrp      Type      type
          DELETEGroup ,Group   group
                               {,Instance instance}
```

特定のパラメータ順序を使用する場合の構文

```
GROUPs DELGrp      group type {instance}
      DELETEGroup
```

- 論理グループからの既存のメンバの削除

キーワードおよび値を使用する場合の構文

```
GROUPs DELMbr      Type      type
      DELETEDMember ,Group    group
                        {,Instance instance}
                        ,Member  member
```

特定のパラメータ順序を使用する場合の構文

```
GROUPs DELMbr      group type member {instance}
      DELETEDMember
```

- 論理グループのメンバのテスト

キーワードおよび値を使用する場合の構文

```
GROUPs TESTmbr     Type      type
      TESTmember   ,Group    group
                        {,Instance instance}
                        ,Member  member
```

特定のパラメータ順序を使用する場合の構文

```
GROUPs TESTmbr     group type member {instance}
      TESTmember
```

- parmlib または永続データストアからの定義の再ロード

構文 :

```
GROUPs RELOAD      {* | blank | WARM}
                  {member      }
                  {DATALIB     }
                  {COLD        }}
```

新規データフィールド

- Instance - 論理グループ インスタンス修飾子。

IPLINFO

IPL 情報

新規データフィールド値

- General - IPL 情報を表示します

有効な値は以下の通りです。

- FMID - ccc

- VERID - <cvtverid>

QUERY

さまざまな値を照会します

構文：

```
QUERY keyword<,target>
```

新規キーワード

- DISPLAYDATA - 表示されたデータのタイプを抽出します。
有効な値は以下の通りです。
 - CAPTURED - 以前にキャプチャされたデータ。
 - REALTIME - リアルタイムデータ。

SCHEDULE

スケジュール済みのイベント

廃止された関数

- MQSDATA-SYSTEM - r14.0 で廃止されたシステム レベル メトリック
この関数は、既存の関数 MQSDATA-QMGRS と結合されました。

SELECT

フィールドの選択条件を設定します。

SELECT コマンドが機能拡張され、以下の選択演算子を使用する場合に論理グループ インスタンスがサポートされるようになりました。

IN - 論理グループ name.instance/type 内のフィールド値

NI - 論理グループ name.instance/type 内にはないフィールド値

構文：

```
SELECT field IN name.instance/type
```

```
SELECT field NI name.instance/type
```

- name - グループ名は必須であり、定義された論理グループ名である必要があります。
- instance - グループ インスタンスはグループ名に対する修飾子であり、オプションです。
- type - デフォルトの論理グループ タイプを使用してフィールドが定義されている場合、グループ タイプはオプションです。グループ タイプを指定すると、デフォルトの論理グループ タイプはオーバーライドされます。

SORT

表示データ行をソートします

構文:

```
SORT field<,order> ... <LINELIMIT limit>
      startcol,endcol<,order> ... <LINELIMIT limit>
      <options>
```

新規構文パラメータ:

- **CLEARSAVED - SORT SAVE** コマンドを使用して保存された **SORT** パラメータをクリアするように要求します。

SORT CLEARSAVED コマンドでは、以下のオプションのキーワードを入力できます。

- **Msg**、**NOMsg** - 「Saved sort parameters that cleared」メッセージの表示を制御します。デフォルトでは、**MSG** に設定されています。

- **QUERYSAVED - SORT SAVE** コマンドを使用して保存された **SORT** パラメータをすべてメッセージに表示するように要求します。

- **RESTORE** - 保存された **SORT** パラメータをすべて復元し、復元された **SORT** パラメータを使用してデータをソートするように要求します。

SORT RESTORE コマンドでは、以下のオプションのキーワードを入力できます。

- **Msg**、**NOMsg** - 「Saved sort parameters that cleared」メッセージの表示を制御します。デフォルトでは、**MSG** に設定されています。

- **Clearsaved**、**NOClearsaved** - 保存された **SORT** パラメータを復元後にクリアするかどうかを制御します。デフォルトでは、**NOCLEARSAVED** に設定されています。

- **SAVE** - 現在の **SORT** パラメータをすべて保存するように要求します。1つの **SORT** パラメータセットのみが保存されます。最初の **SORT SAVE** パラメータは2番目の **SORT SAVE** で上書きされます。

SORT SAVE コマンドでは、以下のオプションのキーワードを入力できます。

- **Msg**、**NOMsg** - 「Saved sort parameters that cleared」メッセージの表示を制御します。デフォルトでは、**MSG** に設定されています。

STATUS

製品および環境の情報を表示します。

新規データフィールド

- 環境

VTAM ApplId <applid>
VTAM Network Name <netname>
Pass Ticket Appl Id <passticketappl>

- 実ストレージ

Total <total>
Assigned <assigned>
Unassigned <unassigned>

- ソフトウェアバージョン

FMID ccc
VERID <cvtverid>

名前が変更されたデータフィールド

Sysplex CF Level は Sysplex Max CF Level に名前が変更されました。

SYSDMON

システム データ収集モニタ

新規データフィールド

- zSwitch - zIIP モード スイッチの数をレポートします。

z/OS コンポーネントの拡張

CA SYSVIEW for z/OS コンポーネントが拡張されました。

z/OS コンポーネントで拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

ACTSUM

ジョブ アクティビティのサマリを表示します。

構文:

```
ACTSUM { Current | Average | MInimum | MAXimum }
        { Normal | Warning | Problem }

        { NOXSData | XSData }
        { NOXSYSstem | XSYSstem }

        { JOBName jobname }
        { JOBId jobid }
        { TYPE jobtype }
        { INTerval minutes }
```

新規構文パラメータ:

- TYPE - Type フィールドに対応する値を持つエントリにのみ、表示を制限します。
- INTerval - Current の値を計算するときに使用する間隔を指定します。

有効な値は以下の通りです。

- デフォルト: 2
- 最小: 1
- 最大: 60

新規情報セクションのフィールド:

- Mode - 要求された表示モード
設定可能な値:
 - CURRENT
 - AVERAGE
 - MINIMUM
 - MAXIMUM
- Interval - 現在値を計算するために平均されるデータ収集間隔の数

ALERTSUM

例外アラート サマリ

新規データフィールド:

- LastDate - リソースに対して最後にトリガされた例外の日付
- LastTime - リソースに対して最後にトリガされた例外の時刻

ASPERF

アドレス空間のパフォーマンス

新規データフィールド:

- ASSJBNI - このアドレス空間に関連付けられた開始済みプログラムのジョブ名
- ASSJBNS - このアドレス空間に関連付けられた START/MOUNT/LOGON のジョブ名
- EnctBase - 前のジョブ ステップの終了時点での EnctBase の値
- EIIPBase - 前のジョブ ステップの終了時点での EIIPBase の値
- EIFABase - 前のジョブ ステップの終了時点での EIFABase の値

DSSERV

データセットサービス

構文

DSSERVxx < reqtype parameters >

新規リクエストタイプ構文パラメータ

以下のリクエストタイプは、**ddname** パラメータ「*」をサポートします。このパラメータでは、新規割り当て用にシステムで生成された **ddname**、または既存の割り当て用にシステムで生成された最新の **ddname** をリクエストできます。

- **ALCONCAT** - 既存のデータセットを **ddname** に割り当ててから連結します。
- **ALLOCATE** - 既存のデータセットを **ddname** に割り当てます。
- **CONCAT** - **ddname** のリストを連結します。
- **DECONCAT** - **ddname** の連結を解除します。
- **FREE** - **ddname** を解放します。

システムで生成された **ddname** は、以下の名前のコマンド変数に割り当てられます。

&DSSERV_SYSGENDD

以下のリクエストタイプは、すでに **DSSERV LOCATE** リクエストの完了後に、カタログ化された **volser** をメッセージで返しています。

- **LOCATE** - カタログ化されたデータセットの **volser** を見つけます。

カタログ化された **volser** も、以下の名前のコマンド変数に割り当てられます。

&DSSERV_VOLSER

LISTCONS

コンソールをリスト表示します。

構文

LISTCONS < options >

新規構文パラメータ

- **XSDData | NOXSData** - システム間データ収集を強制的にオンにするか、オフにするかを制御します。どちらのキーワードも指定されない場合は、**XSDATA** プロファイル設定が使用されます。これらのキーワードを使用することによって **XSDATA** プロファイル設定が変更されることはありません。
- **XSEmcs | NOXSEmcs** - システム間データ モード時に、リモートシステムから **EMCS** コンソール データが返されるかどうかを制御します。このオプションが適用されるのは、**EMCS** オプションも有効である場合のみです。**EMCS** が有効である場合、このオプションの設定にかかわらず、ホームシステムからの **EMCS** コンソールが表示されます。ただし、**XSHOME NO** が有効である場合を除きます。

デフォルト： **NOXESMCS**

新規情報セクション データ フィールド

- **Mode** - コンソール サポートのオペレーション モード。

有効な値

- **DIST** - 分散モード
- **SHR** - 共有モード
- **TRAN** - モードは遷移中です。

PAGEDS

ページデータセットに関する情報を表示します。

構文:

PAGEDS < options >

新規構文パラメータ

- **ADddline**、**NOADddline** - **ADD** 行の表示を制御します。 **LOCAL** ページデータセット スロットを使用できない場合、**ADD** 行は表示されません。たとえば、データセット情報行には **Total** が **Used** と等しく表示されます。

デフォルト: **ADDLINE**

- **Available**、**NOAVailable** - **LOCAL AVAIL** ページデータセット スロットの表示を制御します。すべての **LOCAL** データセット スロットが使用中である場合、**LOCAL AVAIL** 行は表示されません (**Datasets** 情報行には **Total** が **Used** と等しく表示されます)。

デフォルト: **NOAVAILABLE**

情報セクション

- ストレージクラスメモリ (**SCM**) 情報を表示するための情報セクション行および新しいデータ行が追加されています。

情報セクション内の値は、スロット数ではなく、ストレージまたはバイトとして表示されます。

旧バージョン:

```
Datasets      Total   60  In use   39
Page I/O      Total 60041  Active    0
Local Slots   Total 66.7m  In use    0%  VIO    0%
```

新バージョン:

```
PageIO      Total 59345  Active    0
Datasets    Total   60  Used     39
SCM         Size  256G  Used     59.2M  0.02%
LOCAL       Size  254G  Used      0  0.00%
NONVIO
VIO         Used    0  0.00%
```

データフィールド

データ行フィールドは、スロット数ではなく、ストレージまたはバイトで使用状況を表示するように再編成されています。

旧データ行フィールド (抜粋)

Dataset-Name	VIO	Status	Type	Used	Slot-Ct
PAGE.VMVPP31.PLPA			PLPA	81%	17999
PAGE.VMVPP31.COMMON			COMMON	<1%	179999

新規データ行フィールド (抜粋)

Type	Status	Size	Used	Pct%	VIO	Dataset-Name
PLPA	ACTIVE	70.3M	57.2M	81.43%		PAGE.VMVPP31.PLPA
COMMON	ACTIVE	703M	308K	0.04%		PAGE.VMVPP31.COMMON
SCM	ACTIVE	256G	59.2M	0.02%		N/A
LOCAL	ACTIVE	6.88G	0	0.00%	VIO	PAGE.VMVPP310.LOCAL0

新規データフィールド:

- Size - ページスペースの合計サイズ (バイト単位)
- Pct% - 合計サイズに対する使用パーセンテージ。

変更されたデータフィールド

- Used - ページスペースの使用サイズ (バイト単位)。以前のリリースでは、Used の値には使用パーセント値が表示されていました。

削除されたデータフィールド

- Slot-Ct - 使用可能なスロットの総数。

TASK

タスク構造を表示します

新規データフィールド:

- DDName - TCB に対する JOBLIB DCB の DD 名。

XMVS

コマンドを発行し、応答を表示します。

情報セクション

- CmdCART - コマンドが MVS にサブミットされたときに提供されたコマンド/応答トークン。

新規データフィールド:

- Type - 応答のタイプ。

有効な値:

- NONE
- CONTROL
- LABEL
- DATA
- END
- DATAEND
- PROMPT

- Color - 応答の色属性。

有効な値:

- UNKWN
- BACKGR
- BLUE
- RED
- PINK
- GREEN
- TURQ
- YELLOW
- WHITE

- **Hilite** - 拡張された応答の強調表示属性。

有効な値 :

- UNKWN
- NONE
- BLINK
- REV
- USCORE

- **Ints** - 応答の輝度属性。

有効な値 :

- UNKN
- LOW
- HIGH

- **RspCART** - 応答のコマンド/応答トークン。このフィールドは、この **CART** と情報行に表示された **CmdCART** が一致しない場合に強調表示されます。この不一致は、**NOCART** オプションが指定された場合にのみ発生する可能性があります。

追加されたデータ収集しきい値メトリック

以下のしきい値メトリックによりデータ収集が拡張されています。

CECCP%

CEC の CP のビジー状態のパーセンテージ。

リソース：なし

CECCPS

CEC の物理 CP。

リソース：なし

CECICF%

CEC の ICF のビジー状態のパーセンテージ。

リソース：なし

CECICFS

CEC の物理 ICF。

リソース：なし

CECIFA%

CEC の IFA のビジー状態のパーセンテージ。

リソース：なし

CECIFAS

CEC の物理 IFA。

リソース：なし

CECIFL%

CEC の IFL のビジー状態のパーセンテージ。

リソース：なし

CECIFLS

CEC の物理 IFL。

リソース：なし

CECIIP%

CEC の IIP のビジー状態のパーセンテージ。

リソース：なし

CECIIPS

CEC の物理 IIP。

リソース： なし

SCM%

使用中のストレージクラスメモリのパーセンテージ。

リソース： なし

SCMINUSE

使用中のストレージクラスメモリ。

リソース： なし

SCMSIZE

ストレージクラスメモリのサイズ。

リソース： なし

STGREALT

実ストレージ - 合計。

リソース： なし

STGREALU

実ストレージ - 未割り当て。

リソース： なし

JES2 および JES3

JES2 および JES3 が機能強化されました。

追加された JES コマンド

以下の JES コマンドが追加されました。

JESSET

このコマンドは、JES ジョブに対してアクションを実行できる一連の機能を提供します。これらの機能はすべて、JES 表示上で行コマンドまたは変更可能なフィールドとしても使用できます。

拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

JLINES

JES NJE および RJE 回線。

LINES コマンドは JLINES に名前が変更されました。回線デバイス名の形式が LNEnnnnn から LINEnnnnn に変更されました。

回線デバイスがセキュリティ保護されている場合、この変更は内部および外部のセキュリティ定義に影響を与える可能性があります。

以下の同義語が定義されました。

- LINE
- LINES

JES3 1.13 以上のリリースに対して、サポートが追加されました。

新規 JES2 データフィールド

- UserId - ジョブまたは出力用のセキュリティ ユーザ ID。
- Dest - SYSOUT トランスミッタおよびレシーバの出力先。
- SecLabel - 所有者のセキュリティ ラベル。
- Type - 回線のタイプ (NJE または RJE)。
- LineLimit - ジョブ選択に使用される回線の下限および上限。
- PageLimit - 出力選択に使用されるページの下限および上限。
- WorkSelection - デバイスによって使用されるワーク選択条件。
- Disconnect - 切断ステータス。
- AutoDisc - 自動切断オプション。
- Trans - 回線に透過性機能があるかどうかを示します。
- Compress - Trans - 回線に圧縮機能があるかどうかを示します。
- ApplId - 通信に使用されるアプリケーション名。
- Duplex - 回線が半二重であるか、全二重であるかを示します。
- Intf - BSC 回線がインターフェース A を使用するか、インターフェース B を使用するかを示します。
- ContChr - ASCII、EBCDIC 制御文字のどちらが使用されているかを示します。

- Speed - 回線の速度。
- Code - BSC 回線がコード A を使用するか、コード B を使用するかを示します。
- Resist - 回線の抵抗値。
- Restart - 回線が自動的に再起動するかどうかを示します。
- RestIntv - 自動再起動の間隔。
- Connect - 自動接続のオプション。
- ConnIntv - 自動接続の間隔。
- JRNum - ジョブ レシーバの数。
- JTNum - ジョブ トランスミッタの数。
- SRNum - SYSOUT レシーバの数。
- STNum - SYSOUT トランスミッタの数。
- RmtShr - RJE 回線が共有されているかどうかを示します。
- TrcCmn - 一般的なトレースがアクティブであるかどうかを示します。
- TrcExt - 拡張トレースがアクティブであるかどうかを示します。
- Socket - TCP/IP 回線のソケット名。
- Secure - ソケットがセキュリティ保護されているかどうかを示します。
- IPName - TCP/IP 回線の IP ホスト名。
- IPAddr - TCP/IP 回線の IP アドレス。
- PortName - TCP/IP 回線のポート名。
- PortNum - TCP/IP 回線のポート番号。
- NETSRV - TCP/IP 回線の NETSRV 名。
- Protocol - 回線に使用されているプロトコル。
- DSecLabel - デバイスのセキュリティ ラベル。
- System - オペレーティング システム名。
- JESName - JES サブシステム名。
- JESVers - JES バージョン。

削除された JES2 データ フィールド

- Programmer
- Notify
- XmitTime
- XmitDate

名前が変更されたコマンド(JES)

JES LINES コマンドは JLINES に名前が変更されました。

以前の LINES コマンドは、新しい JLINES コマンドに置き換えられます。新しい JLINES コマンドは、JES2 および JES3 の通信回線のステータスを表示するために使用します。

Option for CICS

CA SYSVIEW Option for CICS が機能強化されました。

拡張された CICS データ収集

CA SYSVIEW for CICS データ収集が機能拡張されました。

CICS 論理グループ

論理グループ定義は、特定の CICS 領域に対して保持されなくなりました。定義は、CA SYSVIEW が保持する共通の論理グループセットにマージされました。

定義は、parmlib メンバ GROUPS 内で定義するか、オンライン コマンド GROUPS を使用して定義できます。

CICS トランザクション詳細レコード

CICS の詳細なトランザクション収集が機能拡張され、プログラムおよびファイル リクエストに対してより多くのエラー情報が収集されるようになりました。

この情報は、CICS トランザクション詳細レコード (サブタイプ 27) に記録されます。

プログラム

プログラム セグメントが機能拡張され、プログラムのリクエスト中に発生したエラーの数が含まれるようになりました。

セクション: Programs

Program	SysID	Reqs	Average	Total Error
XPFTTUMB		1	0.000969	0.000969
GSVCMEI		14	0.000019	0.000270
PROG0001		1		
PROG0002		1		
PROG0003		1		
XPFTTU02		1	0.000006	0.000006 1

ファイル

ファイル セグメントが機能拡張され、ファイルのリクエスト中に発生したエラーの数が含まれるようになりました。

セクション: Files

----- Request Time -----						
Filename	Program	SysID	Reqs	Average	Maximum	Total Error
FILEA	DFH\$ABRW		6	0.000017	0.000076	0.000103 1

---Request Time---						
Filename	Program	SysID	Function	Reqs	Average	Total Error
FILEA	DFH\$ABRW		BROWSE	5	0.000005	0.000027 1
			STARTBR	1	0.000076	0.000076

拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

CEPBS

CICS EXIT プログラム ブロック

新規データフィールド

- Instance - インスタンス数。インスタンス数は、EXIT 名が複数回有効になると増加します。

CGBLEXIT

CICS グローバル ユーザ EXIT

新規データフィールド:

- EPL - EPL 制御ブロックのアドレス。
- EPB - EPB 制御ブロックのアドレス。

CICSLIST

CICS 領域

更新されたデータフィールド

- Status - 現在の監視ステータス

設定可能な新しい値

- ACTIVEX - CICS モニタはアクティブです。

製品の別のインスタンスが CICS を監視しています。このインスタンスは、別の製品サブシステムまたはリリースである可能性があります。

設定可能な実行ステージ

- 実行中
- シャットダウンの第 1 または第 2 ステージ

新規データフィールド

- GApplid - CICS の汎用アプリケーション ID

CICSSET

CICS リソースの変更

構文:

CICSSET CHECKPOINT datatype

- datatype - データ定義タイプ「GROUPS」は削除されました。

構文：

```
CICSSET EXPORT    datatype
```

- datatype - データ定義タイプ「GROUPS」は削除されました。

構文：

```
CICSSET SAVE     datatype
```

- datatype - データ定義タイプ「GROUPS」は削除されました。

CMODS

CICS データ コレクション モジュール

新規データフィールド

- Count - モジュールの使用回数
- Size - モジュールのサイズ

CPROGRAM

CICS プログラム統計

新規データフィールド

- Count - モジュールの使用回数
- Size - モジュールのサイズ

CREVIEW

CICS のトランザクション アクティビティ

新規データフィールド

- Bundle - バンドルのライブラリ名。
- Application - アプリケーション名。
- Operation - オペレーション名。
- Platform - プラットフォーム名。
- Major - メジャーバージョン。
- Minor - マイナーバージョン。
- Micro - マイクロバージョン。
- PPT64 - PPT64 制御ブロックのアドレス。
- IAE - IAE 制御ブロックのアドレス。

CSTATES

CICS 状態定義

新規ライン コマンド

- RESET - カウント フィールドを 0 にリセットします。

CSYSDMON

CICS 低下待機分析

新規情報セクションのフィールド

- Clocktime - ジョブが実行されている実時間。
- GSVITime - データ コレクタ開始後の経過時間
- CPUTime - データ コレクタ開始後に CICS アドレス空間によって消費された CPU 時間の量

新規データ フィールド

- Enqueues - エンキュー カウント
- EnqDLAR - エンキュー カウント - データ ライブラリ
- EnqDSPR - エンキュー カウント - データ領域
- EnqMSGR - エンキュー カウント - メッセージング
- EnqSTGR - エンキュー カウント - ストレージ
- EnqVSPR - エンキュー カウント - 仮想ストレージ

CWAITS

CICS 低下待機分析

変更されたデータ フィールド

- Pct - 対応するアクティビティで費やされた存続期間のパーセンテージ。この情報もグラフ形式で表示されます。メトリックが CPU に関連する場合、パーセンテージは、トランザクションによって使用された合計 CPU 時間に基づきます。

削除されたコマンド(CICS)

CGROUPS (CICS 論理グループ) コマンドは削除され、GROUPS コマンドに置き換えられました。GROUPS のシノニムとして CGROUPS が作成されました。

論理グループ定義は、特定の CICS 領域に対して保持されなくなりました。定義は、CA SYSVIEW が保持する共通の論理グループセットにマージされました。

定義は、parmlib メンバ GROUPS 内で定義するか、オンライン コマンド GROUPS を使用して定義できます。

トランザクション データ収集しきい値メトリック

データ収集しきい値メトリックが拡張され、以下の新規トランザクション変数の追加が行われました。

CSFXCPU

SYSVIEW CSF EXIT インターフェース CPU 時間

DFHGroup : なし

MONXCPU

SYSVIEW モニタ EXIT インターフェース CPU 時間

DFHGroup : なし

拡張されたシステム データ収集しきい値メトリック

以下のシステムしきい値メトリックが追加され、データ コレクションが拡張されました。

CDUMPSYS

取得された CICS システム ダンプ。

リソース：なし

以前のリリースでは、メトリックには、要求された CICS システム ダンプの数が含まれていました。

CDUMPTRN

取得された CICS トランザクション ダンプ。

リソース：なし

以前のリリースでは、メトリックには、要求された CICS トランザクション ダンプの数が含まれていました。

TEMPSTG

一時ストレージ - 使用中の TSMain の HWM

リソース：なし

以前のリリースでは、メトリックには、間隔の HWM ではなく、収集時の現在値またはスナップショットが含まれていました。

TEMPSTG%

一時ストレージ - 使用中の TSMain の HWM (%)

リソース：なし

以前のリリースでは、メトリックには、間隔の HWM ではなく、収集時の現在値またはスナップショットが含まれていました。

TEMPSTGQ

一時ストレージ - 使用中のキューの HWM

リソース：なし

以前のリリースでは、メトリックには、間隔の HWM ではなく、収集時の現在値またはスナップショットが含まれていました。

設定オプション - Parmlib メンバ CICSOPTS

構成設定オプション メンバ CICSOPTS が拡張され、以下のオプションの追加が行われました。

CEAPM-MRO

デフォルト : Yes

変更 : このオプションは、初期化後に CCONFIG または CICSSET コマンドを使用して変更できます。

CA Cross-Enterprise APM - CICS トランザクション追跡の統合により、CICS トランザクションに関するパフォーマンス情報が提供されます。CA SYSVIEW では、CICS 領域で実行されるトランザクションのパフォーマンス詳細が表示されます。

CICS トランザクションは、単一の CICS 領域内のトランザクションとして、または複数の CICS MRO 領域で実行されるより複雑なトランザクションとして実行できます。この環境は、AOR 環境に対して TOR と呼ばれることがあります。

MRO 環境でトランザクション相関を実行するかどうかを指定します。

MRO 環境には、以下のリクエストが含まれます。

- 同じ z/OS システム内の別の CICS 領域で実行されているプログラムに対する LINK リクエスト
- 同じ CICS 領域でトランザクションを開始するためのトランザクションの START リクエスト
- 同じ z/OS システム内の別の CICS 領域でトランザクションを開始するためのトランザクションの START リクエスト

有効な値 :

- No - MRO トランザクションに対してトランザクション相関を実行しません。
- Yes - MRO トランザクションに対してトランザクション相関を実行します。

関連オプション :

- CEAPM-MRO-LINK
- CEAPM-MRO-START

CEAPM-MRO-LINK

デフォルト : Yes

変更： このオプションは、初期化後に CCONFIG または CICSSET コマンドを使用して変更できます。

CA Cross-Enterprise APM - CICS トランザクション追跡の統合により、CICS トランザクションに関するパフォーマンス情報が提供されます。CA SYSVIEW では、CICS 領域で実行されるトランザクションのパフォーマンス詳細が表示されます。

CICS トランザクションは、単一の CICS 領域内のトランザクションとして、または複数の CICS MRO 領域で実行されるより複雑なトランザクションとして実行できます。この環境は、AOR 環境に対して TOR と呼ばれることがあります。

プログラムの LINK リクエストに対してトランザクション相関を実行するかどうかを指定します。

有効な値：

- No - プログラムの LINK に対してトランザクション相関を実行しません。
- Yes - プログラムの LINK に対してトランザクション相関を実行します。

関連オプション：

- CEAPM-MRO
- CEAPM-MRO-START

CEAPM-MRO-START

デフォルト： Yes

変更： このオプションは、初期化後に CCONFIG または CICSSET コマンドを使用して変更できます。

CA Cross-Enterprise APM - CICS トランザクション追跡の統合により、CICS トランザクションに関するパフォーマンス情報が提供されます。CA SYSVIEW では、CICS 領域で実行されるトランザクションのパフォーマンス詳細が表示されます。

CICS トランザクションは、単一の CICS 領域内のトランザクションとして、または複数の CICS MRO 領域で実行されるより複雑なトランザクションとして実行できます。この環境は、AOR 環境に対して TOR と呼ばれることがあります。

トランザクションの START リクエストに対してトランザクション相関を実行するかどうかを指定します。

有効な値：

- No - トランザクションの START リクエストに対してトランザクション相関を実行しません。
- Yes - トランザクションの START リクエストに対してトランザクション相関を実行します。

関連オプション:

- CEAPM-MRO
- CEAPM-MRO-LINK

DynAllocUseMsgLevel0

このオプションは、DYNALLOC リクエストが S99RB 内に S99MSGLO フラグを設定するかどうかを制御します。

デフォルト: Yes

変更: このオプションは、初期化後に CCONFIG または CICSSET コマンドを使用して変更できます。

有効な値:

- Yes - すべての動的割り当てリクエストに対して DYNALLOC S99MSGLO オプションが設定されます。この値により、動的割り当てリクエストは JCL MSGLEVEL= オペランドを無視し、代わりに MSGLEVEL=(,0) を使用します。
- No - 動的割り当てリクエストに対して DYNALLOC S99MSGLO オプションは設定されません。この値により、通常の JCL MSGLEVEL= オペランド値を使用できます。

LOGGER-CONNECT-RETRY-COUNT

このオプションは、CICS ロガーに接続するための再試行回数の上限を指定します。

デフォルト : 20

変更 : このオプションは、初期化中のみ CICSOPTS parmlib メンバを使用して設定できます。

CICS データ コレクタ初期化プロセスは、メイン サービス アドレス空間または補助アドレス空間で実行される CICS ロガーへの接続を試行します。接続できない場合は、指定された再試行回数の上限まで再試行を繰り返します。

有効な値 :

0 - 再試行を行わないことを指定します。

最小 - 1

最大 - 20

関連オプション :

- **LOGGER-CONNECT-RETRY-INTERVAL**
- **LOGGER-NAME**

LOGGER-CONNECT-RETRY-INTERVAL

CICS ロガーに接続するための再試行間隔を指定します。

デフォルト : 15

変更 : このオプションは、初期化中のみ CICSOPTS parmlib メンバを使用して設定できます。

CICS データ コレクタ初期化プロセスは、メイン サービス アドレス空間または補助アドレス空間で実行される CICS ロガーへの接続を試行します。接続できない場合は、指定された間隔 (秒単位) で再試行を繰り返します。

有効な値 :

最小 - 5

最大 - 60

関連オプション :

- **LOGGER-CONNECT-RETRY-INTERVAL**
- **LOGGER-NAME**

MEI-DEBUG

CA SYSVIEW for CICS モニタ EXIT インターフェース (MEI) は、CICS プログラムまたはトランザクションに CA SYSVIEW for CICS データ コレクションプロセスの API を提供します。

MEI に渡された情報は、呼び出し元トランザクションの詳細なトランザクション レコードに記録されます。

MEI-DEBUG オプションは、潜在的な問題の診断に役立つ MEI パラメータ ブロックをフォーマットするために使用できます。

デフォルト : No

変更 : このオプションは、初期化後に CCONFIG または CICSSET コマンドを使用して変更できます。

フォーマット/ダンプされたストレージは、メッセージとして GSVCLOG ddname に書き込まれます。

フォーマットされたメッセージの例

```
GSVC146I (Task) MEI Trace    9 TUMB      652 UserData: dataxyz
GSVC910I (Task) Address    00000000_44180C70  Length 00000160
GSVC911I (Task) Offset--  -----+0 -----+4 -----+8 -----+C
GSVC912I (Task) 00000000  00000009 00000000 00000000 00000000
GSVC912I (Task) 00000010  00000000 00000000 00000000 00000000
GSVC912I (Task) 00000020  8481A381 85938594 8595A395 81948540
```

SYSVIEW モニタ EXIT インターフェース (MEI) のデバッグを有効にします。

有効な値:

- No - デバッグ データをフォーマットしません。
- Yes - デバッグ診断データをフォーマットします。

関連オプション:

MEI-LOGGING

MEI-LOGGING

SYSVIEW for CICS モニタ EXIT インターフェース (MEI) は、CICS プログラムまたはトランザクションに SYSVIEW for CICS データ収集プロセスの API を提供します。

MEI に渡された情報は、呼び出し元トランザクションの詳細なトランザクション レコードに記録されます。

MEI-LOGGING オプションは、潜在的な問題の診断に役立つ MEI リクエストをログに記録するために使用できます。

デフォルト: No

変更: このオプションは、初期化後に CCONFIG または CICSSET コマンドを使用して変更できます。

ログ メッセージは、GSVCLOG ddname に書き込まれます。

ログ メッセージの例

```
GSVC146I GSVCM EI Trace 9 TUMB 661 UserData: dataelementname
GSVC146I CICSMEI Trace 9 TUMB 661 UserData: ThisIsMyDataKey
GSVC146I CICSMEI Trace 9 TUMB 661 UserData: ThisIsMyCounter
GSVC146I CICSMEI Trace 9 TUMB 661 UserData: ThisIsMyCounter
GSVC146I CICSMEI Trace 9 TUMB 661 UserData: ThisIsMyDataKey2
GSVC146I CICSMEI Trace 9 TUMB 661 UserData: ThisIsMyDataKey3
GSVC146I CICSMEI Trace 6 TUMB 661 Event: EXECCICS Type: Event001
GSVC146I GSVCM EI Trace 6 TUMB 661 Event: GSVCM EI Type: Event001
GSVC146I CICSMEI Trace 1 TUMB 661 Name: TestMEI Type: SYSVIEW
GSVC146I GSVCM EI Trace 5 TUMB 661 FldCode: 6 Data: GSVCM EI
GSVC146I CICSMEI Trace 2 TUMB 661 Program: PROG0001
GSVC146I CICSMEI Trace 2 TUMB 661 Program: PROG0002
GSVC146I GSVCM EI Trace 2 TUMB 661 Program: PROG0003
GSVC146I GSVCM EI Trace 7 TUMB 661 Event: GSVCM EI Type: Event001
GSVC146I CICSMEI Trace 7 TUMB 661 Event: EXECCICS Type: Event001
```

有効な値:

- No - MEI リクエストをログに記録しません。
- Yes - MEI リクエストをログに記録します。

関連オプション:

MEI-DEBUG

MONITOR-DISPATCH-PRIORITY

デフォルト： Yes

変更： このオプションは、初期化後に CCONFIG または CICSSET コマンドを使用して変更できます。

初期化中に、各 CICS はメイン サービス アドレス空間または補助サービス アドレス空間で実行されている特定の CICS ロガー タスクに接続します。

CICS ロガーは、CICS 領域に関するすべての履歴データをログに記録します。

CICS ロガーを実行しているアドレス空間は、それに接続しようとしている CICS より高いディスパッチ優先順位で実行される必要があります。1 つの CICS ロガーに対して複数の CICS 領域が接続できます。

CICS 領域のディスパッチ優先順位が CICS ロガー アドレス空間より高い場合、CICS ロガー アドレス空間が過負荷になる可能性があります。CICS ロガーが過負荷になると、データが失われたり、破棄されたりする可能性があります。

ディスパッチ優先順位モニタをアクティブにすると、CICS 領域および接続されている SYSVIEW CICS ロガー アドレス空間のディスパッチ優先順位が監視または比較されます。

CICS 領域のディスパッチ優先順位が SYSVIEW CICS ロガー アドレス空間以上である場合は、エラー メッセージ GSVCO65 が発行されます。

有効な値：

- Yes - ディスパッチ優先順位を監視します。
- No - ディスパッチ優先順位を監視しません。初期化中に、優先順位を記録するように求めるメッセージが発行されます。モニタが停止します。

PERFORMANCE-DATA-EXIT-IC

デフォルト : Yes

変更 : このオプションは、初期化後に CCONFIG または CICSSET コマンドを使用して変更できます。

CICS データ コレクタは、トランザクションによって使用されたリクエストおよびリソースを監視し、その詳細情報を収集できます。

このオプションは、以下の CICS ドメインに関連する CICS グローバルユーザ EXIT を使用して利用可能になるデータの収集を制御します。

- IC - 間隔制御

以下の関連オプションが必要です。

- PERFORMANCE-COLLECTION - Yes

- PERFORMANCE-GLOBAL-EXIT-IC - Yes

このオプションに関連付けられたオーバーヘッドに関する詳細なパフォーマンス情報は、オンライン コマンド CGBLEXIT を使用して表示できます。

有効な値 :

- No - データを収集しません。

- Yes - データを収集します。

関連オプション :

- PERFORMANCE-GLOBAL-EXIT-IC

PERFORMANCE-DATA-EXIT-XM

デフォルト : Yes

変更 : このオプションは、初期化後に CCONFIG または CICSSET コマンドを使用して変更できます。

CICS データ コレクタは、トランザクションによって使用されたリクエストおよびリソースを監視し、その詳細情報を収集できます。

このオプションは、以下の CICS ドメインに関連する CICS グローバルユーザ EXIT を使用して利用可能になるデータの収集を制御します。

- XM - トランザクションマネージャ

以下の関連オプションが必要です。

- PERFORMANCE-COLLECTION - Yes

- PERFORMANCE-GLOBAL-EXIT-XM- Yes

このオプションに関連付けられたオーバーヘッドに関する詳細なパフォーマンス情報は、オンライン コマンド **CGBLEXIT** を使用して表示できます。

有効な値:

- No - データを収集しません。
- Yes - データを収集します。

関連オプション:

- PERFORMANCE-GLOBAL-EXIT-XM

PERFORMANCE-GLOBAL-EXIT-IC

デフォルト: Yes

変更: このオプションは、初期化中のみ **CICSOPTS parmlib** メンバを使用して設定できます。

CICS データ コレクタは、トランザクションによって使用されたリクエストおよびリソースを監視し、その詳細情報を収集できます。

このオプションは、以下の **CICS** ドメインに関連する **CICS** グローバルユーザ **EXIT** の有効化を制御します。関連データを収集するには、**EXIT** を有効にする必要があります。

- IC - 間隔制御

有効にする必要があるグローバル ユーザ EXIT

EXIT 名 説明 (タイミングまたは呼び出しタイミング)

XICREQ 間隔制御プログラム リクエストの開始時

このオプションに関連付けられたオーバーヘッドに関する詳細なパフォーマンス情報は、オンライン コマンド **CGBLEXIT** を使用して表示できます。

有効な値:

- No - グローバル ユーザ **EXIT** を有効にしません。
- Yes - グローバル ユーザ **EXIT** を有効にします。

関連オプション:

- PERFORMANCE-DATA-EXIT-IC

PERFORMANCE-GLOBAL-EXIT-TS

CICS データ コレクタは、トランザクションによって使用されたリクエストおよびリソースを監視し、その詳細情報を収集できます。

このオプションは、以下の CICS ドメインに関連する CICS グローバルユーザ EXIT の有効化を制御します。関連データを収集するには、EXIT を有効にする必要があります。

- TS - 一時ストレージ ドメイン

デフォルト : Yes

移行情報 : デフォルト値が No から Yes に変更されています。

変更 : このオプションは、初期化中にものみ CICSOPTS parmlib メンバを使用して設定できます。

有効にする必要があるグローバルユーザ EXIT

- XTSQRIN - TSQR 関数の呼び出し前。
- XTSQROUT - TSQR 関数の呼び出し後。

オンライン コマンド CGBLEXIT を使用して、関連付けられたオプションのオーバーヘッドに関する詳細なパフォーマンス情報を表示できます。

以下のシステム データ収集メトリックを収集するには、このオプションを YES に設定する必要があります。

- TEMPSTG - 一時ストレージ - 使用中の TSMain の HWM
- TEMPSTG% - 一時ストレージ - 使用中の TSMain の HWM (%)
- TEMPSTGQ - 一時ストレージ - 使用中のキューの HWM

有効な値は以下の通りです。

- No - グローバルユーザ EXIT を有効にしません。
- Yes - グローバルユーザ EXIT を有効にします。

関連オプション:

- PERFORMANCE-DATA-SEGLIMIT-TS
- PERFORMANCE-DATA-EXIT-TS

PERFORMANCE-GLOBAL-EXIT-XM

デフォルト : Yes

変更 : このオプションは、初期化中にものみ CICSOPTS parmlib メンバを使用して設定できます。

CICS データ コレクタは、トランザクションによって使用されたリクエストおよびリソースを監視し、その詳細情報を収集できます。

このオプションは、以下の CICS ドメインに関連する CICS グローバル ユーザ EXIT の有効化を制御します。関連データを収集するには、EXIT を有効にする必要があります。

- XM - トランザクション マネージャ

有効にする必要があるグローバル ユーザ EXIT

EXIT 名 説明 (タイミングまたは呼び出しタイミング)

XXMATT トランザクション アタッチ中に呼び出されます

このオプションに関連付けられたオーバーヘッドに関する詳細なパフォーマンス情報は、オンライン コマンド CGBLEXIT を使用して表示できます。

有効な値は以下の通りです。

- No - グローバル ユーザ EXIT を有効にしません。
- Yes - グローバル ユーザ EXIT を有効にします。

関連オプション:

- PERFORMANCE-DATA-EXIT-XM

CA DATACOM Option

CA SYSVIEW CA DATACOM Option が拡張されました。

拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

DCAREAS

CA Datacom/DB ディレクトリ領域

新規データフィールド:

- URIReus - URI-REUS 属性に対して指定された値が含まれます。
有効な値: YES または NO。
- TVer - テーブルのテーブルバージョン(生成レベル)が含まれます。

DCBUFP

CA Datacom/DB MUF バッファ使用状況の統計情報。

新しい構文キーワード:

< REGion | SYStem >

< XSYStem | NOXSYStem >

< XSData | NOXSData >

< GROUP name >

- REGion - 現在のターゲット アドレス空間のみを表示します。コマンドがシステム間データ収集をサポートしている場合、この実行については、このパラメータによってシステム間データ収集が強制的にオフになりますが、XSDATA の現在のプロファイル設定は保持されます。
- SYStem - 現在のシステムのすべての Datacom アドレス空間に対するデータを表示します。
- XSYStem、XSData - すべてのシステムのすべての Datacom アドレス空間を表示します。システム間データ収集の設定は、この実行に対して強制的にオンになります。
XSDATA の現在のプロファイル設定は保持されます。
- NOXSYStem、NOXSData - これにより、この実行に対してシステム間データ収集が強制的にオフになります。
XSDATA の現在のプロファイル設定は保持されます。
- GROUP - 表示される Datacom ジョブ名のリストを含むグループ名を指定する引数が後に続くように指定します。タイプが JOBNAME である利用可能なグループのリストは、GROUPS コマンドで見つけることができます。

グループ名には「*」を指定して、グループ処理が必要ないことを示すことができます。

DCDBASES

CA Datacom/DB ディレクトリ データベース

新規データフィールド値

- Format - CA Datacom/DB バージョン 15.0 で開かれるデータベースを表すフォーマット値 3 が追加されました。

DCDIR

CA Datacom/DB ディレクトリ情報

新規情報セクション フィールド

- TVer - テーブルのテーブルバージョン(生成レベル)が含まれます。

新規データフィールド:

- Version - CXX ディレクトリ バージョン。

DCDSETS

CA Datacom/DB ディレクトリ データセット

新規データフィールド:

- SecCyls - 前回、更新のために領域が開かれたときにレポートされたサイズが含まれます。
- TVer - テーブルのテーブルバージョン(生成レベル)が含まれます。

DCKEYS

CA Datacom ディレクトリ キー

新規データフィールド

- KeyUuse - KEY_USAGE 属性に対して指定された値が含まれます。
- TVer - テーブルのテーブルバージョン(生成レベル)が含まれます。

DCLOG

CA Datacom/DB MUF ログ記録

新規情報セクション フィールド

- TVer - テーブルのテーブルバージョン(生成レベル)が含まれます。

新規データフィールド:

- NumberSequence Block - Log Area 内のログ レコードの割り当て済みログ追跡シーケンス番号が含まれます。

名前が変更されたデータフィールド

古い名前	新しい名前
In-Use	InUse
Blks/Log	BlksLog
Record-Seq	SequenceNumber Rec

DCTABLES

CA Datacom ディレクトリ テーブル

新規データフィールド

- SQLIntent - テーブルの SQL ステータス。
- TVer - テーブルのテーブルバージョン（生成レベル）。

Event Capture Option

CA SYSVIEW Event Capture Option が拡張されました。

追加された Event Capture コマンド

以下のコマンドが追加されました。

CAPDISP

CAPEVENT 表示上で `S<elect>` 行コマンドが入力されると、キャプチャされたコマンドデータを表示する内部専用コマンド。

CAPDISP は、キャプチャ イベント間のナビゲーションに役立つキャプチャ ナビゲーション オプションおよびサブコマンドを提供します。たとえば、`PREv` および `NEXt` サブコマンドを使用することにより、簡単にナビゲートし、定期的にスケジュールされたキャプチャ イベントから時系列で同じコマンドを表示できます。

RMCFCONN

RMCFSTRU DETAIL 表示上で `S<elect>` 行コマンドが入力されると、カップリング ファシリティ構造への接続を表示する内部専用コマンド。

RMCFSTRU

カップリング ファシリティ内に割り当てられた構造に関する RMF 履歴情報を表示するための新しいコマンド。

拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

RMCAP

RMF CPC キャパシティ情報。

新規サブコマンド:

NEXt - 既存の FORward サブコマンドの別名。

PREv - 既存の BACKward サブコマンドの別名。

RMCDDEV

RMF キャッシュ デバイス情報。

新規サブコマンド:

NEXt - 既存の FORward サブコマンドの別名。

PREv - 既存の BACKward サブコマンドの別名。

RMCHAN

RMF チャネルパス情報。

新規サブコマンド:

NEXt - 既存の FORward サブコマンドの別名。

PREv - 既存の BACKward サブコマンドの別名。

RMDASD

RMF DASD デバイス情報。

新規サブコマンド:

NEXt - 既存の FORward サブコマンドの別名。

PREv - 既存の BACKward サブコマンドの別名。

RMJOBS

RMF ジョブ情報。

新規サブコマンド:

NEXt - 既存の FORward サブコマンドの別名。

PREv - 既存の BACKward サブコマンドの別名。

RMMSU

RMF MSU 情報。

新規サブコマンド:

NEXt - 既存の FORward サブコマンドの別名。

PREv - 既存の BACkward サブコマンドの別名。

RMORPHAN

RMF 孤立ストレージ情報。

新規サブコマンド:

NEXt - 既存の FORward サブコマンドの別名。

PREv - 既存の BACkward サブコマンドの別名。

RMPROC

LPAR に関する RMF CPC プロセッサ情報のサマリを提供します。

新規データフィールド

- Pz - オンラインプロセッサの配列状態。
有効な値は以下の通りです。
 - HZ - 水平配列。
 - VL - 低位のエンタイトルメントを持つ垂直配列。
 - VM - 中位のエンタイトルメントを持つ垂直配列。
 - VH - 高位のエンタイトルメントを持つ垂直配列。
- MinWgt - 最小の LPAR 共有。
- IniWgt - 定義済み（初期）の LPAR 共有。
- PolWgt - HiperDispatch モードがアクティブである場合の論理 CPU の重み。

新規サブコマンド:

NEXt - 既存の FORward サブコマンドの別名。

PREv - 既存の BACkward サブコマンドの別名。

RMSTG

RMF サマリ ストレージ情報。

新規サブコマンド:

NEXt - 既存の FORward サブコマンドの別名。

PREv - 既存の BACkward サブコマンドの別名。

RMUSSP

RMF USS プロセス情報。

新規サブコマンド:

NEXt - 既存の FORward サブコマンドの別名。

PREv - 既存の BACKward サブコマンドの別名。

IDMS コンポーネント

IDMS 機能への拡張が行われました。

IDMS コンポーネントに追加されたコマンド

CA SYSVIEW for IDMS が機能拡張され、以下の新規コマンドが追加されました。

- IDMSSET - IDMS リソースを変更します

拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

IDTASKS

CA IDMS アクティブ タスクを表示します。

新規ライン コマンド

- Cancel - 選択されたタスクをキャンセルします。

Option for IMS

CA SYSVIEW Option for IMS が拡張されました。

DC モニタレコード処理

デフォルトでは、DC モニタリング レコードの処理は無効です。

IMS データ収集

新しいデータ収集イベント機能が追加されました。このデータ収集イベントは、CA SYSVIEW イベント スケジューラを使用して制御およびスケジューラされます。この新しいイベントは、IMS データ収集タスク IMSDATA の初期化中に、既存のスケジューラに動的に追加されます。

この新しいイベントは、IMS データ収集タスク IMSDATA の初期化中に、既存のスケジューラに動的に追加されます。

イベント スケジューラ定義が parmlib メンバ SCHDIMS に追加されました。

依存領域

```
DEFINE IMS-REGIONS
  GROUP      IMSDATA
  DESC      'IMS data collection - Dependent Regions '
  TYPE      RECUR
  ALLDAYS
  DATEBEGIN *          DATEEND *
  TIMEBEGIN MIDNIGHT  TIMEEND *
  EVERY     1MINUTE
  LIMIT     NOLIMIT
  FUNCTION  IMSDATA-REGIONS
  PARMs     *
  ENABLED
ENDDFINE
```

拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

IMSDESS

IMS 依存の領域の外部サブシステム接続を表示します。

新規行コマンド

- DB2Tact - DB2 接続に対して DBTHACT コマンドを呼び出します。
- MQTact - MQ 接続に対して MQUSER 表示を呼び出します。

IMSLOGRS

IMS ロガーを表示します。

新規データフィールド

- CPICLogW - CPI-C 領域レコードを領域レコードログ ストリームに書き込むかどうかを指定します。IMSLOGR PARMLIB オプションの LOG-IMSREGN-CPI-RECORDS を参照してください。
- CPICRecs - 書き込まれた CPI-C 領域レコードの数。IMSRSLG コマンドは領域レコードログを表示します。

IMSRACT

IMS 依存の領域のアクティビティ詳細を表示します。

新規データフィールド

- RBA - DB セグメントの相対バイトアドレスを表示します。このフィールドは、フルファンクションデータベースにのみ適用されます。

IMSREGNS

IMS 依存の領域を表示します。

新規構文パラメータ

- ROIntvl - 領域占有率 (RO%) の計算に使用される現在の間隔 (分単位)

新規情報セクションフィールド

- ROInterval - 領域占有率 (RO%) の計算に使用される現在の間隔 (分単位)

新規行コマンド

- ESS - 選択条件として IMS 領域名を使用して、IMSDESS コマンドを発行します。
- Graph - 選択した領域の領域占有率に対して GRAPH コマンドを呼び出します。変数またはメトリック名は IMRGOCC% です。
- Plot - 選択した領域の領域占有率に対して PLOT コマンドを呼び出します。変数またはメトリック名は IMRGOCC% です。
- Task - 選択した領域に対して TASKS コマンドを発行します。
- TM - 選択した領域に対して TASKMON コマンドを発行します。

IMSTLOG

IMS トランザクション ログ

新規データフィールド:

- CCode - トランザクション異常終了コードを指定します。
- Userid - トランザクションを発行したユーザを識別します。

RPT25534

SMF レコード レポート

新規データフィールド

- Condition Code - トランザクション異常終了コードを指定します。

追加されたデータ収集メトリック

データ収集が機能拡張され、以下のメトリックが追加されました。

IMRGBUSY

領域ビジー時間（間隔）

リソース：imsregn

IMRGOCC%

領域占有率（%）

リソース：imsregn

追加されたデータ収集モニタリングメトリック

データ収集モニタリングメトリックが機能拡張され、以下のデータ収集が追加されました。

IMSREGN

監視対象のIMS依存の領域。

リソース：imsregn

設定オプション - Parmlib メンバ IMSLOGR

構成設定オプション メンバ IMSLOGR が拡張され、以下のオプションの追加が行われました。

ACTIVATE-DC-MONITOR

IMSLOGR が DC モニタ インターセプトをアクティブにするかどうかを指定します。DC モニタ インターセプトは、詳細なトランザクション アクティビティを追跡し、CA SYSVIEW によって作成された IMS トランザクション SMF レコードに情報を追加します。

以下のオプションにより、監視 t 対象の詳細のレベルの制御に関するより多くの情報が提供されます。

- PROCESS-DCM-TYPE
- PROCESS-DCBMP-TYPE
- PROCESS-DCDBT-TYPE

デフォルト = No

注: DC モニタをアクティブにすると、IMS トランザクションで CPU 時間が増加する可能性があります。

LOG-PLOT-IMS-REGIONS

IMS 領域データ レコードを 1 時間ごとに PLOT ログ ストリームに記録します。

デフォルト = NO

PROCESS-DCBMP-TYPE

IMS BMP 領域に対して監視する IMS イベントのイベント コードを指定します。イベント コードの詳細およびリストについては、PROCESS-DCM-TYPE オプションの説明を参照してください。

デフォルト = NONE

注: 一部のイベント タイプを監視すると、IMS BMP で CPU 時間が増加する可能性があります。

構文:

```
PROCESS-DCBMP-TYPE x4E:xcc:SET  
PROCESS-DCBMP-TYPE x4E:xcc:RESET  
CC
```

イベント コードを指定します。

```
SET
```

イベント コードを監視することを示します。

RESET

イベント コードを監視しないことを示します。

PROCESS-DCDBT-TYPE

CICS DBT IMS 領域に対して監視する IMS イベントのイベント コードを指定します。

イベント コードの詳細およびリストについては、PROCESS-DCM-TYPE オプションの説明を参照してください。

デフォルト = NONE

注: 一部のイベント タイプを監視すると、IMS DBT 領域で CPU 時間が増加する可能性があります。

構文

```
PROCESS-DCDBT-TYPE x4E:xcc:SET
```

```
PROCESS-DCDBT-TYPE x4E:xcc:RESET
```

CC

イベント コードを指定します。

SET

イベント コードを監視することを示します。

RESET

イベント コードを監視しないことを示します。

PROCESS-DCM-TYPE

メッセージ駆動型 IMS 領域に対して監視する IMS イベントのイベント コードを指定します。 イベント モニタリングでは、IMS トランザクションおよび領域サマリ レコードに含められるイベント数やイベント経過時間などの詳細情報が提供されます。

デフォルト値は、IMSREGNS 表示上での領域占有率の計算および表示を有効にします。

デフォルト = x14,x15,x38,x39

注: 一部のイベント タイプを監視すると、IMS トランザクション領域および IMS メッセージ処理領域で CPU 時間が増加する可能性があります。

構文:

```
PROCESS-DCM-TYPE x4E:xcc:SET
```

PROCESS-DCM-TYPE x4E:xcc:RESET

CC

イベント コードを指定します。

SET

イベント コードを監視することを示します。

RESET

イベント コードを監視しないことを示します。

コード	監視対象イベント
x14、x15	- スケジューラ IWAIT
x20、x21	- ストレージ IWAIT
x22、x23	- OSAM I/O IWAIT
x24、x25	- VSAM I/O IWAIT
x28、x29	- VSAM I/O IWAIT
x38、x39	- FASTPATH メッセージ IWAIT
x43	- FASTPATH バッファ アクティビティ
x47	- BALG デキュー
x48、x49	- 外部サブシステム呼び出し (DB2 および WMQ)
x56	- MSDB 書き込み IWAIT
x57	- DEDB 読み込み IWAIT
x58、x59	- DB および msg 呼び出しの FASTPATH アクティビティ
x62、x63	- IMS DB DL/I 呼び出し
x64、x65	- IMS MSG DL/I 呼び出し
x66、x67	- PI エンキュー IWAIT
x68、x69	- DEDB ロック IWAIT
x70、x71	- ICAL DL/I 呼び出し
x72	- DEDB OTHREAD IWAIT
x78、x79	- SYNC 呼び出し
x84、x85	- VSO エリア キャストアウト
x88、x89	- VSO プリロード

複数のイベント コードを監視するには、複数の PROCESS-DCM-TYPE オプションを指定します (各コードに 1 つのオプション)。

例：IMS DB DL/I のみを監視する方法

1. すべてのイベントをすべてオフにします (デフォルト値のクリア)。
2. 目的のイベント コードを指定します。

```
PROCESS-DCM-TYPE x4E:*:RESET
PROCESS-DCM-TYPE x4E:x62:SET
PROCESS-DCM-TYPE x4E:x63:SET
```

削除された構成オプション

以下の設定オプションは削除されました。

- SKIP-BMP-DLI-SLOG-RECORDS
以下に置き換えられました。
 - PROCESS-DCBMP-TYPE x4E:x62:RESET
 - PROCESS-DCBMP-TYPE x4E:x63:RESET
- SKIP-BMP-SLOG-RECORDS
以下に置き換えられました。
 - PROCESS-DCBMP-TYPE x4E*:RESET
 - PROCESS-DCBMP-TYPE x4E*:RESET
- SKIP-DBT-DLI-SLOG-RECORDS
- SKIP-DBT-SLOG-RECORDS
- SKIP-DLI-SLOG-RECORDS

IMS モニタリング定義 - Parmlib メンバ: IMSMON

新しいデータ収集イベント機能が追加されました。このデータ収集イベントは、CA SYSVIEW イベント スケジューラを使用して制御およびスケジューリングされます。一部のデータ収集タイプには、監視対象のリソースを指定するモニタリング定義を作成する必要があります。

- **IMSREGN** - IMS 依存の領域。

リソース：IMS 依存の領域名

- 汎用リソース名を使用できます。
- 論理グループがサポートされています。
- 論理グループタイプ：**IMSREGN**

リソース名は、以下の形式で指定されます。

type.jobname

依存領域タイプ

- **BMP** - バッチ領域
- **BMPE** - ESS 接続されたバッチ領域
- **BMPH** - バッチ HSSP 領域
- **BMPM** - バッチ メッセージ駆動型領域
- **DBT** - CICS DBCTL 領域
- **FPM** - FASTPATH メッセージ領域
- **FPU** - FASTPATH ユーティリティ領域
- **JMP** - JAVA メッセージ領域
- **JMPE** - ESS 接続された JAVA メッセージ領域
- **JMPI** - JAVA CPIC メッセージ領域
- **JBP** - JAVA バッチ領域
- **JBPE** - ESS 接続された JAVA バッチ領域
- **JBPH** - JAVA バッチ HSSP 領域
- **JBPM** - JAVA メッセージ駆動型バッチ領域
- **TP** - メッセージ処理領域
- **TPE** - ESS 接続されたメッセージ処理
- **TPI** - CPIC メッセージ処理領域

IMSSET コマンド

新しい IMSSET コマンドは、IMS オブジェクトおよびリソースに対してアクションを実行できる一連の機能を提供します。

構文

```
IMSSet objectparms <targetparms> <options>
```

Option for WebSphere MQ

CA SYSVIEW Option for WebSphere MQ が拡張されました。

拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

MQALERTS

MQ 例外アラートを表示します。

構文

```
MQALERTS {{ WARNING | NORMAl }
           { THRESH | ALL }
           { DETAIL | SUMMARY }
           { STATS | NOSTATS }
           { DESC | NODESC }
           { ACK | NOACK }
           { NOXSData | XSData }
           { NOXSYStem | XSYStem }

           { NAME name }

           { RESource resource } -+
           { RSCE resource } |--- synonyms
           { ARGument resource } -+

           { QMGR qmgr }
           { GROUP group }
           { SUBGroup subgroup }
           { SUMMGRP summgrp }
}
```

変更された構文パラメータ

- `qmgr - QMGR` フィールド内に対応する値を持つエントリにのみ、表示を制限します。`qmgr` 値は、論理グループ名「>グループ」として指定できます。

関連付けられた論理グループタイプは `MQQMGR` です。

MQALTER

WebSphere MQ 変更オブジェクト

新規データフィールド(AUTHINFO オブジェクト)

- `Authtype` - 認証タイプ (CRLLDAP または OCSP)。
- `OcspsUrl` - オブジェクト `TYPE=OCSP` に関連付けられた URL。

MQAUTHIN

WebSphere MQ 認証情報オブジェクト

新規データ フィールド:

- OcsUrl - オブジェクト TYPE=OCSP に関連付けられた URL。

MQBUFFER

MQ バッファ統計情報を表示します。

新規データフィールド

- **BuffCnt** - プールに割り当てられたバッファの総数。

このフィールドには **Buffers** フィールドと同じデータが表示されますが、さらに **MQ** しきい値変数 **QPSTNBUF** のステータスが表示されます。 **Buffers** フィールドは、引き続きプールのサイズを変更するために使用できる入力可能フィールドです。

- **Loc** - バッファ プールの場所。

設定可能な値：

- **ABOVE** - バッファ プールは、バーより上の 64 ビット ストレージ内にあります。
- **BELOW** - バッファ プールは、バーより下の 31 ビット ストレージ内にあります。
- 空白 - このリリースでは、バーより下のストレージのみがサポートされているため、プールは 31 ビット ストレージ内にあります。

このフィールドには、以下の場合に入力できます。

- キューマネージャが 8.0.0 以上である。
 - キューマネージャがローカル システム上にある。
 - **OPMODE(NEWFUNC,800)**、または 800 を超えるリリース（互換モード）。
 - 1 つ以上のページのセットがプールに割り当てられている。
- **RowStat** - 行に表示される全体または最高条件ステータス フィールド。

変更されたデータフィールド

- **Buffers** - このフィールドには、以下の場合にのみ入力できます。
 - キューマネージャがローカル システム上にある。
 - 1 つ以上のページのセットがプールに割り当てられている。

バーより下にあるバッファの場合、値は 100 から 500000 までの数値です。

バーより上にあるバッファの場合、値は 100 から 99999999 までの数値です。

- CSteal - MQBPCSTL MQ しきい値変数に基づいた新規ステータスの強調表示。
- DasdR - MQBPPIOR MQ しきい値変数に基づいた新規ステータスの強調表示。
- DasdW - MQBPPAGW MQ しきい値変数に基づいた新規ステータスの強調表示。
- DWTSt - MQBPAPWO MQ しきい値変数に基づいた新規ステータスの強調表示。
- Free - MQBPFREE MQ しきい値変数に基づいた新規ステータスの強調表示。
- GetNP - MQBPNEW MQ しきい値変数に基づいた新規ステータスの強調表示。
- GetP - MQBPGETS MQ しきい値変数に基づいた新規ステータスの強調表示。
- NoBuf - MQBPNOB MQ しきい値変数に基づいた新規ステータスの強調表示。
- Pct% - MQBPUSE% MQ しきい値変数に基づいた新規ステータスの強調表示。
- SetW - MQBPPAGU MQ しきい値変数に基づいた新規ステータスの強調表示。
- Steals - MQBPSTL MQ しきい値変数に基づいた新規ステータスの強調表示。
- SynW - MQBPSPWO MQ しきい値変数に基づいた新規ステータスの強調表示。
- SynWP - MQBPSWPS MQ しきい値変数に基づいた新規ステータスの強調表示。
- TotPW - MQBPPIOW MQ しきい値変数に基づいた新規ステータスの強調表示。
- Used - MQBPUSED MQ しきい値変数に基づいた新規ステータスの強調表示。

MQCHAN

WebSphere MQ チャネル定義。

新規データフィールド

- UseDLQ - 送達不能キューを使用します。

MQCHCSND

WebSphere MQ クラスタ送信者チャンネル。

新規データフィールド

- UseDLQ - 送達不能キューを使用します。

MQCHCRCV

WebSphere MQ クラスタ受信者チャンネル。

新規データフィールド

- UseDLQ - 送達不能キューを使用します。

MQCHRCVR

WebSphere MQ 受信者チャンネル。

新規データフィールド

- UseDLQ - 送達不能キューを使用します。

MQCHRQSR

WebSphere MQ 要求者チャンネル。

新規データフィールド

- UseDLQ - 送達不能キューを使用します。

MQCHSNDR

WebSphere MQ 送信者チャンネル。

新規データフィールド

- UseDLQ - 送達不能キューを使用します。

MQCHSRVR

WebSphere MQ サーバチャンネル。

新規データフィールド

- UseDLQ - 送達不能キューを使用します。

MQDEFINE

WebSphere MQ 定義オブジェクト。

新規データフィールド (AUTHINFO オブジェクト)

- Authtype - 認証タイプ (CRLLDAP または OCSP)。
- OcspsUrl - オブジェクト TYPE=OCSP に関連付けられた URL。

MLGMGR

WebSphere MQ ログ マネージャ。

新規情報フィールド

- RBA-8 - 8 バイト RBA インジケータ。

変更されたフィールド

- すべての RBA フィールドが拡張され、8 バイト RBA 値がサポートされるようになりました。

MQMGR

WebSphere MQ キュー マネージャ。

サポートされる属性

- WebSphere MQ 7.1.0 および 8.0.0 属性のサポート。

MQQLocal

WebSphere MQ ローカル キュー。

新規データフィールド

- ClchName - クラスター チャネル名 (WebSphere MQ 8.0 以上)。 相関 ID によるインデックスが付けられた共有可能な転送キューにのみ有効です。

MQQSTAT

WebSphere MQ キュー ステータス ハンドルを表示します。

新規データフィールド

- ApplDesc - キュー マネージャに接続されたアプリケーションの説明。
- Channel - ハンドルを所有するチャネルの名前。
- Conname - ハンドルを所有するチャネルに関連付けられた接続名。

MQSSET

WebSphere MQ オブジェクトを操作できる一連の機能を提供します。

新規オブジェクト サポート

- AUTHINFO - 認証情報オブジェクトに対する処理リクエスト。

機能

- 変更
- 定義
- 削除

- **BUFFPOOL** - バッファ プール オブジェクトに対する処理リクエスト。
機能
 - 変更
 - 削除
- **CFSTRUCT** - カップリング ファシリティ 構造オブジェクトに対する処理リクエスト。
機能
 - 変更
 - 定義
 - 削除
 - 回復
 - バックアップ
- **LOG** - プロセス ログ リクエスト。
機能
 - アーカイブ
 - キャンセル
- **PROCESS** - プロセス オブジェクトに対するサービス リクエスト。
機能
 - 変更
 - 定義
 - 削除
- **STGCLASS** - ストレージ クラス オブジェクトに対する処理リクエスト。
機能
 - 変更
 - 定義
 - 削除
- **ZPARM** - アーカイブ、ログ、およびシステム パラメータに対する処理リクエスト。
機能

- 設定

追加されたデータ収集しきい値メトリック

以下の新しいデータ収集しきい値メトリックにより、データ収集が拡張されています。

MLQ1ARCH

コピーリング 1 にアーカイブされるログ。

リソース：なし

MLQ1CUR%

コピーリング 1 でのアクティブ ログのパーセントフル値。

リソース：なし

MLQ1STOP

コピーリング 1 で停止したログ。

リソース：なし

MLQ1TOT%

ログ コピーリング 1 のパーセントフル値。

リソース：なし

MLQ2ARCH

コピーリング 2 にアーカイブされるログ。

リソース：なし

MLQ2CUR%

コピーリング 2 でのアクティブ ログのパーセントフル値。

リソース：なし

MLQ2STOP

コピーリング 2 で停止したログ。

リソース：なし

MLQ2TOT%

ログ コピーリング 2 のパーセントフル値。

リソース：なし

追加されたデータ収集状態メトリック(MQ)

Option for WebSphere MQ が機能拡張され、新しい状態データ収集メトリックが追加されました。

MQLMOFFL

MQ ログ マネージャ オフロード ステータス。

リソース：なし

MQLMSTAT

MQ ログ マネージャ ステータス。

リソース：なし

設定オプション - Parmlib メンバ MQSDATA

パラメータ ライブラリ メンバ MQSDATA が拡張され、新しい設定オプションが含まれるようになりました。

LOG-REQUESTS-TO-SMF

監視対象キュー リクエストの履歴データが SMF に記録されるかどうかを指定します。

デフォルト：No

このデフォルト値は YES から NO に変更されました。

関連オプション

- MONITOR-MQS-REQUESTS
- SMF-RECORD-COMPRESSION
- SMF-RECORD-TYPE

設定オプション - Parmlib メンバ MQSERIES

構成設定オプション メンバ MQSDATA が拡張され、以下のオプションの追加が行われました。

BROWSE-MSG-COUNT-MAXIMUM

MQBROWSE、MQDEAD、MQEVENT、および MQCHAUTH などのコマンドを使用してメッセージを参照するときに読み込まれるメッセージの最大数を指定します。

デフォルト = 32768

BROWSE-MSG-LENGTH-MAXIMUM

MQBROWSE、MQDEAD、MQEVENT、および MQCHAUTH などのコマンドを使用してメッセージを参照するときに読み込まれるメッセージの最大長を指定します。この長さを超えるメッセージは切り捨てられます。

デフォルト = 2048

CHLAUTH-MSG-COUNT

MQCHAUTH コマンドを使用してメッセージを参照するときに読み込まれるメッセージの最大数を指定します。このパラメータの上限は、BROWSE-MSG-COUNT-MAXIMUM パラメータで設定されます。

デフォルト = 32768

CHLAUTH-MSG-LENGTH

MQCHAUTH コマンドを使用してメッセージを参照するときに読み込まれるメッセージの最大長を指定します。この長さを超えるメッセージは切り捨てられます。このパラメータの上限は、BROWSE-MSG-LENGTH-MAXIMUM パラメータで設定されます。

デフォルト = 12288

MQBROWSE-MSG-COUNT

MQBROWSE コマンドを使用してメッセージを参照するときに読み込まれるメッセージの最大数を指定します。このパラメータの上限は、BROWSE-MSG-COUNT-MAXIMUM パラメータで設定されます。

デフォルト = 32768

MQBROWSE-MSG-LENGTH

MQBROWSE コマンドを使用してメッセージを参照するときに読み込まれるメッセージの最大長を指定します。この長さを超えるメッセージは切り捨てられます。このパラメータの上限は、**BROWSE-MSG-LENGTH-MAXIMUM** パラメータで設定されます。

デフォルト = 532

MQDEAD-MSG-COUNT

MQDEAD コマンドを使用してメッセージを参照するときに読み込まれるメッセージの最大数を指定します。このパラメータの上限は、**BROWSE-MSG-COUNT-MAXIMUM** パラメータで設定されます。

デフォルト = 32768

MQDEAD-MSG-LENGTH

MQDEAD コマンドを使用してメッセージを参照するときに読み込まれるメッセージの最大長を指定します。この長さを超えるメッセージは切り捨てられます。このパラメータの上限は、**BROWSE-MSG-LENGTH-MAXIMUM** パラメータで設定されます。

デフォルト = 256

MQEVENT-MSG-COUNT

MQEVENT コマンドを使用してメッセージを参照するときに読み込まれるメッセージの最大数を指定します。このパラメータの上限は、**BROWSE-MSG-COUNT-MAXIMUM** パラメータで設定されます。

デフォルト = 8192

MQEVENT-MSG-LENGTH

MQEVENT コマンドを使用してメッセージを参照するときに読み込まれるメッセージの最大長を指定します。この長さを超えるメッセージは切り捨てられます。このパラメータの上限は、**BROWSE-MSG-LENGTH-MAXIMUM** パラメータで設定されます。

デフォルト = 3172

強化されたシステム間サポート

以下の機能強化が行われました。

XSUSER コマンド

システム間のユーザを表示します。

新規データフィールド:

- PTKtAppl - Pass Ticket が提供された場合に、セッションにログインするために使用される Pass Ticket アプリケーション ID。

コンポーネント

CA SYSVIEW コンポーネントの拡張機能についてこのセクションで説明します。

オーディット イベント コンポーネント

オーディット イベント コンポーネントは、CA SYSVIEW 製品内で実行されるアクティビティおよびアクションを追跡または監査します。オーディット イベント コンポーネントはリソースの置き換えや変更を行うアクティビティを記録するように設計されます。

追加されたオーディット イベント

以下のオーディット イベントが追加されました。

- **IDMS_TASK_CANCEL**

IDMS タスクをキャンセルするリクエストが行われるたびにオーディット イベントをログに記録します。

- **SET_SCHENV_RESOURCE**

ワークロード マネージャ内の定義済みリソースのスケジューリング環境状態を設定するリクエストが行われるたびにオーディット イベントをログに記録します。

記録されるアクションは以下のとおりです。

- オフ-リソースを **OFF** の状態に設定します。
- オン-リソースを **ON** の状態に設定します。
- リセット-リソースを **RESET** の状態に設定します。

拡張されたコマンド

既存のコマンドに、以下の拡張が行われました。

AUDITLOG

オーディット イベント ログ。

新規サブコマンドの構文

構文： **OPTIONS <options>**

パラメータおよび説明

Period seconds - レコードを表示する期間を指定します。デフォルトは 0（無制限）です。

値の例

60	60 秒
120Sec	120 秒
5MINutes	5 分
1Hours	1 時間
1Days	1 日
1MONths	1 か月
1Years	1 年

hh:mm:ss

時:分:秒

構成オプションメンバ AUDIT

設定オプション parmlib メンバ AUDIT は、SMF にオーディット レコードを記録するかどうかを指定します。

オプション : LOG-AUDIT-SMF

デフォルト : No

このデフォルト値は YES から NO に変更されました。

関連オプション :

- SMF-COMPRESSION
- SMF-RECORD-TYPE

GUI(グラフィカル ユーザ インターフェース)

CA SYSVIEW CA GMI コンポーネントは、最新の GMI Windows GUI インターフェースを提供します。ユーザはこのインターフェースから CA SYSVIEW にアクセスし操作を行うことができます。このインターフェースへの拡張が行われました。

名前が変更されたオブジェクト(GUI)

LINES は JLINES に変更され、現在 JES2 および JES3 バージョンがあります。

GMI オブジェクト名は、それぞれ SY163001 および SY163002 です。

削除されたオブジェクト(GMI)

CGROUPS (CICS トランザクション グループ (SY602200)) コマンドは、製品から削除されました。

GROUPS コマンドは、現在は CICS グループを処理します。

拡張されたオブジェクト (GMI)

以下のオブジェクトが拡張されました。

GROUPS

新規オブジェクト アクション

- RELOAD - ロード定義

オブジェクトツリーの機能拡張

オブジェクトツリーの機能が拡張され、以下のフォルダが追加されました。

CA SYSVIEW¥CICS¥Administration

CGROUPS オブジェクトは、オブジェクトツリーのこの部分にある GROUPS オブジェクトと置換されました。

CA SYSVIEW¥JES¥Output Management および CA SYSVIEW¥JES¥Device Management

LINES コマンドは JLINES に名前が変更され、JES2 バージョンおよび JES3 バージョンはそれぞれ JES2 サブフォルダおよび JES3 サブフォルダの下に配置されました。

REXX 環境

CA SYSVIEW REXX 関数が機能拡張されました。

追加された REXX 関数

CA SYSVIEW REXX 関数が機能強化され、以下の新規コマンドが追加されました。

- ATTN - ATTN キー（アテンション割り込み）処理を実装します。
- CONFIRM - 確認を促すメッセージを表示します。
- FUNCCMD - 選択された CA SYSVIEW 機能コマンドを呼び出します。
- GROUPS - 論理グループおよびその内容を管理します。
- OSCMDRSP - オペレーティング システム コマンドを発行し、コマンド応答を stem 変数で返します。
- PUTSCRN - メッセージが含まれる出力専用画面を表示します。
- SAFAUTH - SAF クラス、エンティティ、および必要なアクセス レベルに関する SAF 許可チェックを実行します。
- RESCHECK - リソースセキュリティ許可チェックを実行します。
- SORT - スタックからレコードを取得し、リクエスト順にソートして、スタックに返します。
- TESTMC - 提供された文字列内にマスク文字（可変長または固定長）が存在するかどうかをテストします。
- WAIT - 一定の時間待機します。
- XBUFR - REXX EXEC に対して CA SYSVIEW データ バッファ サービスを提供します。
- XLATEMC - システムのデフォルトのマスク文字（可変長および固定長）を現在のユーザのプロファイルで定義されたマスク文字に変換します。

セキュリティ

CA SYSVIEW セキュリティが拡張されました。

追加されたセキュリティ リソース

以下のセキュリティ リソースが追加されました。

XSDATA

システム間コマンド データへのアクセスを制御します。

廃止されたセキュリティリソース

以下のリソースが削除されました。

CICSGRPS

CICS グループ定義を定義および変更するためのアクセスを制御します。セキュリティファイル内のすべての CICSGRPS リソース定義は、セキュリティ変換 (INST0050 ジョブ) の一部として GROUPS リソース定義に変換されます。

リソース検証に外部セキュリティを使用している場合、SV.RESN.*.CICSGRPS.* エンティティに対するすべての SAF コールは SV.RESN.*.GROUPS.* に対する呼び出しになります。

追加されたセキュリティコマンドグループ

以下のセキュリティ コマンドグループが追加されました。

GSVIDMSA - ALTER 属性を持つ IDMS コマンドが含まれます。

拡張されたコマンド

SECURITY コマンドに対して、以下の機能拡張が行われました。

SECURITY

新規情報フィールド

- Cache - セキュリティデータのキャッシュステータスを表示します。

有効な値は以下の通りです。

Y - セキュリティデータセットがキャッシュされます。

N - セキュリティデータセットはキャッシュされません。

新規サブコマンド

- DELCache - キャッシュを手動で削除するために使用します。

現在では、セキュリティデータセットはメモリにキャッシュされます。

複数のシステムで同じセキュリティファイルを共有している場合、セキュリティの更新を実行したら、そのセキュリティファイルを共有しているすべてのシステム上で DELCache サブコマンドを使用してキャッシュをフラッシュする必要があります。更新を実行したローカルシステムは自動的にフラッシュされます。

追加されたセキュリティ設定オプション

以下のセキュリティ設定オプションが追加されました。

Security-Validation

USERDEF の新しい許容値により、外部セキュリティ製品のユーザ定義フィールドを使用して内部セキュリティグループを設定できます。

セキュリティ検証の設定の詳細については、**SAMPLIB** メンバを参照してください。

- ACF2 - GSVUDEFA
- RACF - GSVUDEFR
- TopSecret - GSVUDEFT

セキュリティ parmlib メンバ OPTIONS

パラメータ ライブラリ メンバ **OPTIONS** が機能拡張され、以下のオプションが追加されました。

オプション: RACFConnGrpPfx

SAFUserGroupField で指定されたユーザ定義フィールド名に対して検索する **RACF** 接続グループのプレフィクス名を指定します。

デフォルト : **USER** プロファイル内のユーザ定義フィールドを確認した後ですべての **RACF** 接続グループを検索します。

注 : このオプションが使用されるのは、システム環境設定 **parmlib** メンバで **Security-Validation** が **USERDEF** に設定され、**RACF** が外部セキュリティ マネージャである場合のみです。

オプション: SAFUserGroupField

ユーザの内部セキュリティ グループ名が含まれるユーザ定義フィールドの名前を指定します。

このオプションが使用されるのは、システム環境設定 **parmlib** メンバで **Security-Validation** の値が **USERDEF** に設定されている場合のみです。

ユーザ定義フィールドが外部セキュリティ マネージャで定義されている必要があります。

オプション: SAFUserGroupSegment

ユーザの内部セキュリティ グループ名が含まれるユーザ定義フィールド名に関して **SAF** を呼び出す場合に使用されるセグメント名を指定します。

このオプションが使用されるのは、システム環境設定 **parmlib** メンバで **Security-Validation** の値が **USERDEF** に設定されている場合のみです。

ユーザ定義ディスプレイ

CA SYSVIEW では、ユーザ専用のコマンドディスプレイが作成できます。以下のプロセスでは、ディスプレイの作成について説明します。

ディスプレイの作成方法

1. ユーザ コマンドディスプレイを作成するには REXX を使用します。
2. REXX EXEC を呼び出すには、RXDISP コマンドを使用します。
3. REXX スタックのキューに置かれたデータを使用して、CA SYSVIEW ディスプレイを作成します。

ディスプレイは単純なテキスト行か、または拡張属性を使用したフォーマットで作成することもできます。

ユーザディスプレイは以下の機能をサポートできます。

- 拡張属性
- オンライン ヘルプ
- 行コマンド
- 選択
- ソート

ユーザコマンド定義

ユーザコマンド定義が機能拡張され、ヘルプメンバをユーザコマンドに関連付けることができるようになりました。

```
DEFINE          commandname
  MINlen        nn
  DESCRIPTION   ' '
  HELP          member
  CMDstring     string
ENDDDEFINE
```

製品で提供されているサンプルユーザコマンド

ADDTOGRP

リストを論理グループに追加します。

CAPDISPLAY

現在の表示をキャプチャします。

CICSDATA

CICS データ収集ダッシュボード。

DASHboard

ダッシュボードを表示します。

FILEList

リスト Multi-DSN ディレクトリを表示します。

GOTOCICS

CICS 領域に移動します。

LOAN

ローン計算機能を表示します。

LOGOFF

製品からログアウトします。

MQCLUSTERTopic

クラスタ MQ トピック オブジェクトを表示します。

MQLOCALTopic

ローカルに定義された MQ トピック オブジェクトを表示します。

NEWCHELP

ライブラリ キャッシュに HELP ライブラリが再ロードされます。

NEWCPARM

ライブラリ キャッシュにパラメータ ライブラリが再ロードされます。

NEWCTEMP

ライブラリ キャッシュにテンプレートが再ロードされます。

PLOTJOBS

複数のジョブにメトリックをプロットします。

PROBLEM

問題行を選択します。

STARTSYSVIEW

SYSVIEW メインアドレス空間を開始します。

STOPSYSVIEW

SYSVIEW メインアドレス空間を停止します。

STP

Server Time Protocol 情報を表示します

SYSVDATA

SYSVIEW データ収集ダッシュボード。

SYSVZIIP

SYSVIEW zIIP 使用状況ダッシュボード。

TOPCPU

トップ 10 の CPU アドレス空間

UNIQflds

一意なフィールドのリストを表示します。

WARNing

警告行を選択します。